

令和元年度(平成 31 年度)

校内研修のまとめ



新見市立新見第一中学校

はじめに

今年度の校内研修を進めるにあたって、昨年度の実践から次のような課題点が挙げられた。

- ・「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善については、継続的な取組が必要であり、研修や公開授業を計画的に行う。
- ・普通学級における特別支援教育の観点からの授業づくりを、全教員で研修し実践していく必要がある。
- ・プログラミング教育も3年目を迎え、導入の意義と目的を再認識し、実践的な場面での学びを定着させていく。

以上3点の改善点を踏まえた校内研修を実施することとした。

目 次

1	校内研修を進めるにあたって	P1～P4
	○学校教育目標・研究主題	
	○研修計画	
	○学力向上プラン	
	○一中型家庭学習のスタンダード	
2	校内研修・公開授業の実践記録	P5～P54
	○校内研修（6回） ※6回目は学校評価と兼ねている	
	○公開授業研修会（6月・10月）	
	○初任者公開授業研修会（10月）	
3	プログラミング学習の実践記録	P55～P73
	○先生チャレンジ	
	○特別支援チャレンジ	
	○IOT チャレンジ	

平成31年度 学校教育目標及び校内研究主題

新見市立新見第一中学校

<教育目標>

はつらつと心豊かにたくましく生きる力の育成

<研究主題>

主体的に学び合い、高め合う生徒の育成を目指して

<研究主任> 谷岡明日美

<研究計画の概要>

(1) 授業研修

「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善を行う。生徒が主体的に学び、基礎的・基本的な知識や技能を着実に修得しながら学び合い、次の学習に生かそうとする態度の育成に向けて、効果的な指導方法を探る。

(研修方法)

研修チーム（教科横断型）を編成し、指導方法の研修を OJT 研修により行う。各チーム1名が公開授業を計画し、それに向けて協働で授業デザイン・指導案作成や授業のふり返しを行う。

(2) 特別支援教育に関する研修

通常の学級における特別支援教育の観点からの授業づくりや合理的配慮・個別の教育支援計画における研修を行う。岡山県総合教育センターの学校力向上サポートキャラバン事業を活用し、年間2回講師を迎え、講義・演習を行う。

(3) 「特別の教科 道徳」に関する研修

本年度から実施される「特別の教科 道徳」について、道徳教育推進教師を中心に、「考え、議論する」授業や評価について研修を行う。

(4) まとめと評価

研究実践の記録と評価をまとめ、次年度につなげる。

平成31年度 校内研修実施計画 (5/27 改訂版)

新見市立新見第一中学校

1 授業研修チーム ◎総責任者 谷岡明日美

教科・領域	公開授業者	実施日	メンバー ○は責任者
特別支援	藤野 ③	10月	○藤井、杉本、上仲
技術科	白神 ④	10月	○小林、横見、教頭
社会科	有西 ②	10月	○堀江、安田、岡崎
保健体育科	前原 ②	12月	○西村、中山、羽柴
	久津間①	12月	
英語科	中務 ①	12月	○重村、三上、小松

注1 ①・・・初任教員 ②・・・2年目教員 ③・・・3年目教員 ④・・・4年目教員

注2 ○JT研修として位置付ける

注3 初任者は12月に新見市教育委員会の指導訪問をうける

2 校内研修予定

実施日		テーマ 内容	研修形態・協力機関
第1回	6月	「通常の学級における特別支援教育の観点を取り入れた授業づくり」についての研修	全体研修 岡山県総合教育センター 学校力向上サポートキャラバン
第2回	6月	「特別の教科 道徳」に関する研修 ～「考え、議論する」道徳について～	全体研修 道徳教育推進教師
第3回	7月	公開授業に向けて ～授業デザインの検討～	授業研修
第4回	10月	公開授業（社会・技術・特別支援） 研究協議	公開授業研修
第5回	10月	学校における合理的配慮の提供の在り方、個別の教育支援計画の作成と活用についての研修	全体研修 岡山県総合教育センター 学校力向上サポートキャラバン
第6回	12月	初任者授業研修 保健体育科・英語科	初任者指導訪問 新見市教育委員会
第7回	2月	「特別の教科 道徳」に関する研修 ～評価について～	全体研修 道徳教育推進教師

平成31年度 学力向上プラン全体計画

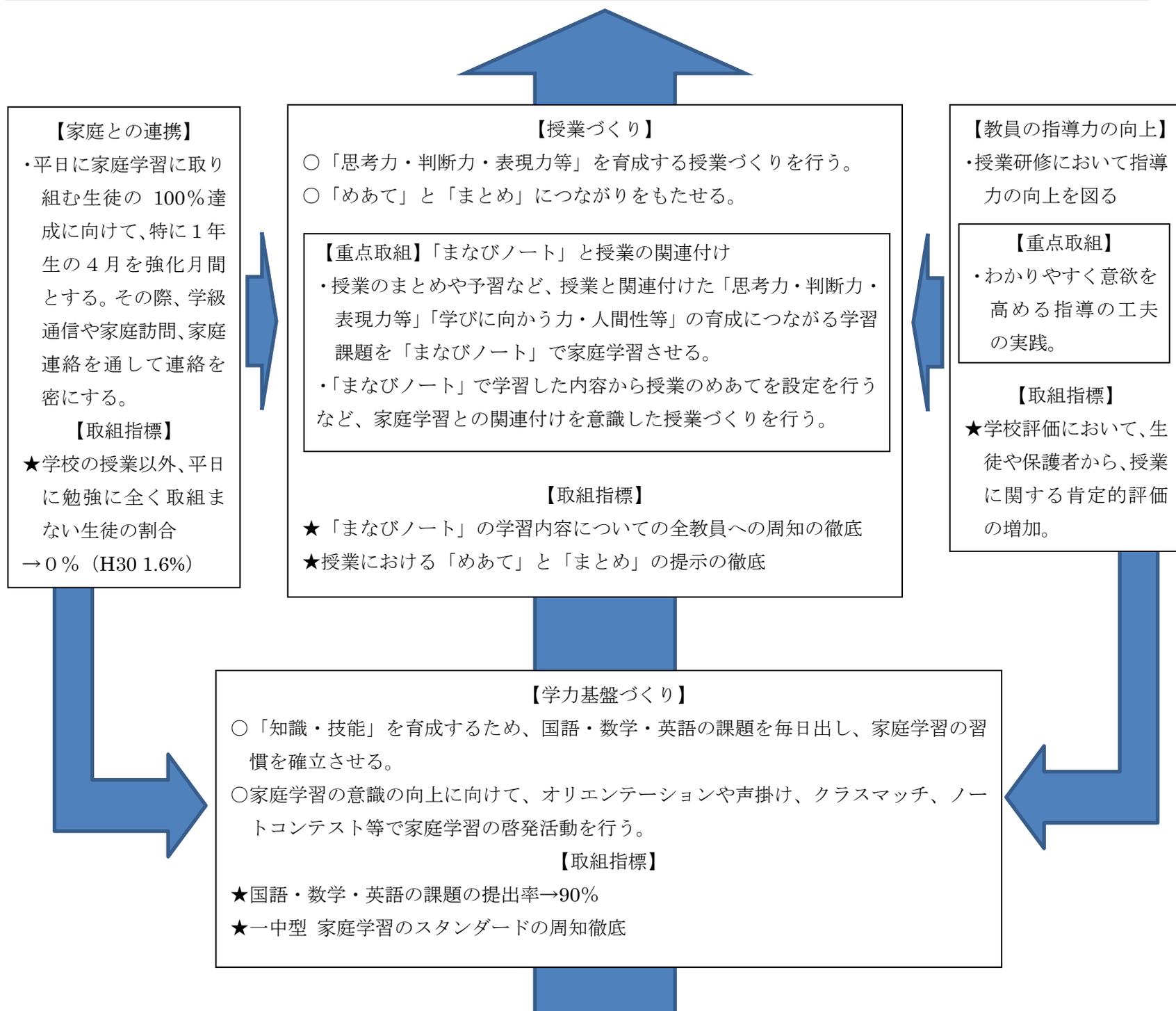
新見市立新見第一中学校

【中期目標】「思考力・判断力・表現力等」の育成を目指す。

【中期指標】「まなびノート」(自主学习)を中心とした家庭学習が、「思考力・判断力・表現力等」(「学びに向かう力・人間性等」)の育成につながるように、授業と関連させた課題を各教科担当で示し、生徒の実践を促す。

【短期目標】「知識・技能」の確実な定着のため、家庭学習に取り組むことができる生徒の育成を目指す。

【短期指標】平日家庭学習に1時間以上(1年生80分、2年生90分、3年生100分)取り組む生徒を70%以上に増やす。



《生徒の学力の課題及び要因の考察》

<学力の課題>・H30年度全国学力調査において、国語では、書いた文章を読み返し、伝えたい内容が十分に表されているかを検討する問題において課題がみられた。数学では主として資料の活用の領域や記述式において全国と正答率に差がみられ、生きて働く「知識・技能」の定着が求められる。

・H30年度学習状況調査において、平日家庭学習に1時間以上取り組む生徒の割合が全国平均を下回っている。(本校63.7%、全国70.6%)

・学校評価においても保護者、教員において「家庭学習」の項目が低い。家庭学習の確立が課題である。

<要因>

・家庭学習の習慣が定着していない生徒が一定数いる。

・生徒の日々の頑張りを認め、意欲を高める家庭学習の充実を目指した取り組みの共通認識が必要である。

一中型 家庭学習のスタンダード

小・中学校・家庭が連携し、相互理解のもと
家庭学習時間の確保と充実を目指した取り組み

1年 80分

2年 90分

3年 100分

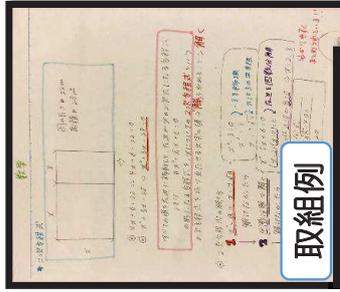
新見第一中学生



自ら学ぼう

まなびノートの取り組み (H28年度～)

- 毎日1ページ以上自主学習に取り組み、学習に向かう努力を評価する。教員からのフィードバックによる意欲の向上。



取組例

- 帰りの会で計画を立て、学習に取り組む。その日の振り返りをし、◎・○・△で自己評価する。

R-PDCAサイクルで家庭学習を自分自身の力で構築していく。

計画・振り返りシート

支援

「家
庭学習の基本は『宿題+自主学習』である」と共通認識をもつこと！

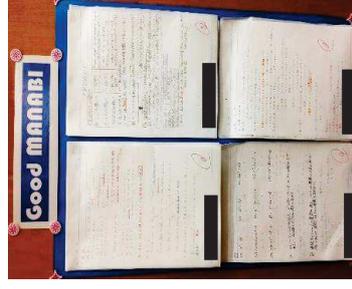
宿題による学習習慣の定着

- 国語・数学・英語の宿題を毎日出す。
- 提出物の点検を毎日行い、生徒の日々の頑張りを認め、意欲を高める。



学習に向かうための支援

- 取組みの好事例を紹介
- 生徒会主体のクラスマッチで意欲向上



← 友達の学び方を学ぶ



← 集団で学ぶ雰囲気
を高めていく

- 家庭学習の時間確保と定着のため、学校の取り組みの理解と協力を家庭に求める。



ポイント

眠っている頭を勉強
モードに切り替え！
落ちついた気持ちで学びに向かう。

読書活動の充実→落ち着いた学習環境づくり・豊かな情操の獲得
登校後、20分間の朝読書を実施。教員も同じく読書活動に取り組む。

(様式②) 〔市〕

新見一中発 第37号
令和元年5月28日

岡山県総合教育センター所長 殿

新見市立新見第一中学校
校長 小藤 一成

職
印

平成31年度学校力向上サポートキャラバン事業（市）指導主事派遣申請書
次により、貴所属指導主事を派遣くださるよう申請いたします。

記

1 派遣者 特別支援教育部 指導主事 山根 亮

2 期 日 令和元年6月12日（水）

3 場 所 新見市立新見第一中学校 被服室

4 研修について

(1) 研修形態※次のいずれかに○を付けてください。

校内研修

地区研修

(2) 名 称 特別支援教育の観点からの授業づくり

(3) 目 的 通常の学級における特別支援教育の観点を取り入れた授業づくりについて理解を深める。

(4) 内 容

・研修項目※実施要項に示す1～22の中から該当する番号を記入してください。 [5]

・関連した研修項目※希望する場合のみ、1～22の中から該当する番号を記入してください。 []

・研修方法※次のいずれかに○を付けてください。

講義・演習

授業研究

・研修内容の詳細※希望する研修内容や教科領域名等をできるだけ詳しく記入してください。

① 支援を要する生徒が在籍することを念頭に置いた授業デザインの構築。

② 授業に集中できない生徒や学力が著しく低い生徒へのアプローチ方法。

・日 程

14:50～15:50 講義・演習

15:50～16:40 協議、質疑応答、振り返り

(5) 主催者 新見市立新見第一中学校

(6) 参加者の範囲及び人員 本校教員 25名

5 派遣旅費負担区分 県総合教育センター負担

6 その他

・連絡先 所属名 新見市立新見第一中学校
担当者名 主幹教諭 藤井幸治
電話番号 0867-72-0629
E-mail niimi.daiichijh.a00@gmail.com

※派遣申請書は公印を押印した後、PDF ファイルにして、教育委員会へ提出してください。

(様式②) [市]

新見一中発 第 号
令和元年 9 月 20 日

岡山県総合教育センター所長 殿

新見市立新見第一中学校
校長 小藤 一成

職
印

令和元年度学校力向上サポートキャラバン事業（市）指導主事派遣申請書

次により、貴所属指導主事を派遣くださるよう申請いたします。

記

1 派遣者 特別支援教育部 指導主事 岡崎 綾子

2 期 日 令和元年 10 月 21 日（月）

3 場 所 新見市立新見第一中学校 被服室

4 研修について

(1) 研修形態※次のいずれかに○を付けてください。

校内研修

地区研修

(2) 名 称 特別支援教育の観点からの授業づくり

(3) 目 的 通常の学級における特別支援教育の観点を取り入れた授業づくりについて理解を深める。

(4) 内 容

・研修項目※実施要項に示す 1～22 の中から該当する番号を記入してください。 [5]

・関連した研修項目※希望する場合のみ、1～22 の中から該当する番号を記入してください。 []

・研修方法※次のいずれかに○を付けてください。

講義・演習

授業研究

・研修内容の詳細※希望する研修内容や教科領域名等をできるだけ詳しく記入してください。

授業に集中できない生徒や学力が低い生徒へのアプローチ方法。生徒自らが授業に参加しているという能動的な意識を高める声かけや接し方の研修。

・日 程

14:50～15:50 講義・演習

15:50～16:40 協議、質疑応答、振り返り

(5) 主催者 新見市立新見第一中学校

(6) 参加者の範囲及び人員 本校教員 25 名

5 派遣旅費負担区分 県総合教育センター負担

6 その他

・連絡先 所属名 新見市立新見第一中学校
担当者名 主幹教諭 藤井幸治
電話番号 0867-72-0629
E-mail niimi.daiichijh.a00@gmail.com

※派遣申請書は公印を押印した後、PDF ファイルにして、教育委員会へ提出してください。

ICT 活用教育公開授業研修会 要項

1 期 日 令和元年 6 月 7 日(金)

2 会 場 新見市立新見第一中学校

3 研究主題 「主体的に学び合い、高め合う生徒の育成を目指して」

4 日 程

9:20～ 9:40 ICT を用いた授業の事前説明 パソコン教室

9:50～10:40 公開授業 3 年 3 組教室

学 年 3 年 3 組

教 科 社会科

単 元 「平和国家を目指して」

指導者 教諭 有西陽路

10:50～11:40 研究協議・情報交換 パソコン教室

5 参加者

○井原市立芳井中学校より

教諭 青木 健 (研究主任)、 教諭 鳥越直子、 教諭 大友康弘

○本校担当者

主幹教諭 藤井幸治 (教務・ICT 担当)、 教諭 有西陽路 (3 年 3 組担任)

指導教諭 小林 悟 (授業改革推進員)、 ICT 支援員 塚本智代

6 配布資料

○ICT 活用教育実践事例集 (平成 27 年度～30 年度)

○校内研究のまとめ (平成 28 年度～30 年度)

○プログラミング教育の取組 (平成 30 年度)

○教育計画 (平成 31 年度)

○本時の目標（めあて）

- 新しい憲法で目指した社会のしくみがどのようなものか説明できる。

○指導上の留意点

- 小中連携
小学校の既習事項を想起させることで、学習のつながりを意識できるようにする。
- 情報機器の活用
班の意見の発表にiPadを使用することで、学習の効率化を図る。
- 協働学習
個人思考をふまえて、学習班で意見交流し、考えを深めていく。

○評価の観点

- 新しい憲法で目指した社会のしくみについて、資料の中から必要な情報を選択し、適切にまとめている。

〔思考・判断・表現〕

- 新しい憲法で目指した社会とは、どのようなものか、自分の考えを述べようとしている。

〔関心・意欲・態度〕

○準備

- 教科書、資料集、ノート、IWB、iPad、発表ボード

<板書計画>

授業の流れ

目標
教育基本法
民法
財閥解体
農地改革
まとめ
振り返り

目標 新しい憲法のもとで目指した社会のしくみがどのようなものなのか説明できる。

日本国憲法（1946年11月3日公布
1947年 5月3日施行）

教育基本法

- 3つの柱
国民主権
基本的人権の尊重
平和主義（戦争放棄）

民法

財閥解体

4つの政策はどのような社会を目指して行われたのか？

農地改革

まとめ 日本国憲法のもとで行われた改革によって、様々な面で民主化が進んだ。

振り返り

<本時の流れ>

①前時の復習

②本時の目標（めあて）を確認する。

③日本国憲法と3つの柱についてまとめる。

④中心課題についての個人思考を行う。（10～15分）

⑤中心発問についての意見交流を行う。（学習班5～10分・全体5分）

⑥まとめ「日本国憲法のもとで行われた改革によって、様々な面で民主化が進んだ」

⑦振り返り「分かったこと」「疑問に思ったこと」「調べてみたいこと」をノートに記述する。



授業参観シート

岡山型学習指導のスタンダード「授業5」

令和元年 6月 7日(金) 2時間目 3年3組 社会
授業者:有西陽路先生 題材名:平和国家を目指して

①めあて(目標)を示す

②自分で考え、表現する時間を確保する。

③目標の達成度を
確認する。

④学習内容をまとめる。

⑤授業を振り返り、
家庭学習につなげる。

目標 新しい憲法のもと目指した社会が
どのようなものか説明できる。

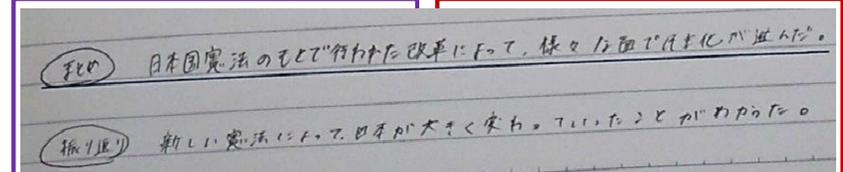
○前時の民主化についての学習を振り返ってから、本時のめあてを提示しました。
○小学校の既習事項として、日本国憲法の成立・3つの柱について、2年生の既習事項として大日本帝国憲法との比較をコンパクトに行ったので、次の個人思考や学習班の時間を十分に確保することができました。(ここまで約10分)



○民主化の4政策が目指した社会について、個人思考で8分間、学習班で6分間考えてました。
○個人思考では、2分毎に次の政策を考えるように促し、順調なタイムマネジメントができました。



○Dropboxに入れた各班の考えをIWBで表示し、黒板にキーワードを書いて確認していきました。
○赤線を引いて分かりやすくなった班や、机間指導で見つけた個人の考えを紹介したのが素晴らしかったです。



○4つの政策が目指した社会と、日本国憲法の3つの柱との関連について確認し、「まとめ」を教師が板書してまとめました。
○生徒に自分の言葉で書かせる時間を確保できませんでした。到達度の確認の意味からも、ぜひ、次回は生徒に文章化させる取組をしましょう。



○「わかったこと」「疑問に思ったこと」「調べてみたいこと」をノートに書かせました。

板書・ノート

目標 新しい憲法のもと目指した社会が
どのようなものか説明できる。

日本国憲法 (1946年11月3日公布
1947年5月3日施行)

3つの柱

国民主権
基本的人権の尊重
平和主義(戦争放棄)

4つの政策がどのような社会を
目指して行われたのか?

教育基本法 (1.2)

平和な社会

民法 (3.4)

男女平等

財閥解体 (5.6)

戦争をしない、経済の民主化

農地改革 (7.8)

地主と小作人の制度を改める ⇒ 平等な農村

まとめ 日本国憲法のもとで行われた改革により、

様々な面で民主化が進んだ。

振り返り

研修メモ

○教科書・資料集の着目する場所をデジタル教科書の赤枠で示し、個人思考しやすくなりました。個別支援でも、丁寧に考える視点を示していたのがよかったです。

○めあて・学習課題などを提示する際、「調べて(考えて)いきます」などは「(生徒が)与えられた」印象を持ちます。生徒が調べたくなるような「前振り・手立て」を工夫しましょう。

○挙手と自由発言の使い分け、「せーの」で一斉に答える方法など、より多くの生徒が参加できるように、発問のバリエーションを増やしましょう。
授業改革推進員:小林 悟

第1回校内研修開催要項

令和元年6月12日(水)

14:50~16:30

於 被服室

1 開会

2 講義・演習 「特別支援教育の観点からの授業づくり」

講師：岡山県総合教育センター 特別支援教育部 指導主事 山根 亭 先生

☆研修内容より 「特別支援の観点を取り入れた授業とは」

個々の生徒の特性に合わせた対応
手順を明確に
環境づくり
急がない
誰もが考えることができるように
見える化
思考を促す
思考しやすい場づくり
選択肢を示し思考させる
情報を見る必然性

3 質疑応答、ふり返し

4 閉会

第2回校内研修開催要項

令和元年7月17日（水）

14：40～16：30

於 被服室

- 1 開会（あいさつ 教頭）
- 2 道徳授業について（小林奈津子）
- 3 ふるさとキャリア教育推進事業について（藤井幸治）
- 4 公開授業研修会に向けて（谷岡明日美）
【授業日 10月15日（火） 午後 公開授業・研究協議】
 - （1）授業の構想（授業者より）
 - ① 3年社会（有西陽路）
 - ② 3年総合的な学習の時間（白神栄治）
 - ③ あげぼの学級活動（藤野真美）
 - （2）チーム別協議（授業デザイン・今後の予定等）
 - （3）板書型指導案作成について（小林悟）
- 5 閉会（あいさつ 校長）

チーフ責任者（谷岡明日美）、サブ責任者（小松 学）

教科・領域	公開授業者	実施日	メンバー ○は責任者
特別支援学活	藤野 ③	10月15日(火) 公開授業研修会	○藤井、杉本、羽柴、岡崎、久津間
総合的な学習の時間	白神 ④	(市) ICT・プログラミング活用 教育推進事業を兼ねる	○小松、三上、上仲、中山、前原 小林
社会科	有西 ②		○堀江、安田、西村、横見、重村 中務

ホワイトボード

特別支援学活

藤野先生

グループ



総合

白神先生

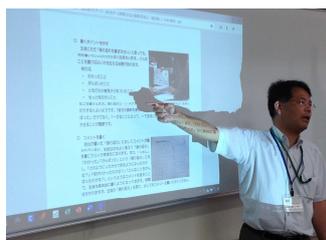
グループ



社会科

有西先生

グループ



小林悟先生

校長先生

教頭先生



板書型学習指導案を書く時のポイント

1 基本構成は3つの部分

(1) 主眼 (ねらい・目標)

「教材」「学習活動」「学力」などの要素を明確にして、評価可能な行動目標で示すとよい。

(例) 「〇〇に着目し、〇〇する活動を通して、〇〇が説明できる」

(2) 板書計画

「めあて」「資料や課題の提示場所」「生徒の考え」「発問や学習課題」「因果関係を示す矢印や色囲み」「まとめとなるキーワード等」を、分かりやすく配置する。

(3) 授業の流れや留意点

「岡山型学習指導のスタンダード (授業5)」を参考に、5つの場面を意図的に配置する。板書計画にも、その位置づけを示すと分かりやすい。

2 受け入れられやすい特徴は3つある

「授業イメージの可視化」 「学習内容の整理と構造化」 「授業記録としての活用」

3 作成の手順

(1) めあて (目標), 評価 (評価基準)

- ① その時間に最も身に着けてほしい学習内容を明確にし、「めあて (目標)」を設定する。
- ② 「まとめ」および「評価基準」を設定する。

(2) 学習課題と発問

- ① 生徒に取り組みせる「主たる学習課題 (主発問)」を設定する。
- ② 「主たる学習課題 (主発問)」に迫るための学習展開を考える。

(3) 板書計画

- ① 「主たる学習課題 (主発問)」に着目し、生徒の興味が高まる板書全体の配置を考える。
- ② 「生徒の考え」「資料」の提示場所を確保する。
- ③ 構造的で分かりやすい板書を心掛ける。分割法を用いると有効。

(4) 指導上の留意点, 準備物

- ① 学習展開と板書計画を照らし合わせて、学習のつまずきとなるポイントを予想し、その具体的な手立てを考える。
- ② 必要な準備物を確認する。

(5) 見直し

- ① 授業をイメージしてシミュレーションし、必要に応じて見直しを行う。
- ② 見直しの際、「めあて」「まとめ」「評価基準」等にズレが起きないように注意する。
- ③ 授業実践後、改善点を加筆修正して保存する。

<引用文献・参考資料>

- ・『岡山型学習指導のスタンダード【増補版】授業改善、「一歩前へ!」』岡山県教育委員会 (2019.7.)
- ・前原隆志「板書型指導案に関する一考察」山口大学教育学部附属教育実践総合センター研究紀要 第42号 (2016.9.)

○本時の目標 (めあて)

※ 評価可能な行動目標の形で示すとよい。

(例) 新しい憲法で目指した社会のしくみがどのようなものか、4つの(民主化) 政策に着目して説明できる。

○指導上の留意点

※ 予想されるつまずきを示し、その手立てを記入する。

・ 小中連携

小学校の教科書の該当部分を示して既習事項を想起させることで、学習のつながりを意識できるようにする。

・ 協働学習

考えを持ちにくい生徒には、資料で注目する部分をヒントカードで示すことで、個人の考えをもって学習班での意見交流に臨むことができるようにする。

○評価の観点

- ・ 新しい憲法で目指した社会のしくみについて、資料の中から必要な情報を選択して適切にまとめ、自分の考えを表現している。〔思考・判断・表現〕

○準備

- ・ 教科書(小学6年上・中学歴史)、資料集、ノート、ワークシート、IWB、iPad、発表ボード、ヒントカード

<板書計画>

授業の流れ

目標

教育基本法

民放

財閥解体

農地改革

まとめ

振り返り

目標 新しい憲法のもとで目指した社会のしくみがどのようなものなのか、① 4つの政策に着目して説明できる。

日本国憲法(1946年11月3日公布
1947年 5月3日施行)

・ 3つの柱

国民主権

基本的人権の尊重

平和主義(戦争放棄)

4つの政策は、どのような社会を目指して行われたのか?

- ・ 政策のポイントを資料から読み取る

②

- ・ 目指した社会のしくみを考える

④

教育基本法

民法

財閥解体

農地改革

学習班・全体で
出た考えや意見
・ポイントなど
を、ここに板書
する。 ③

振り返り ⑤

まとめ 日本国憲法のもとで民主化を進め、国民主権の、平和で、人権尊重がなされた社会を目指した。

<本時の流れ>

○前時の復習

・ 小学校の教科書を用いて日本国憲法の3つの柱を確認する。私たちの生活でこれらが大切な役割を果たしていることに気付かせて、関心を高める

①目標(めあて)を示す

・ 日本国憲法の3つの柱はどのような社会を実現しようとしていたのか、具体的な4つの政策をもとに考えると理解できそうだと生徒が気付いたところを目標を設定する。

②中心課題について個人で考える。

・ 予想させる(2分)。
・ 資料から、4つの政策のポイントを読み取らせた上で、目指した社会のしくみについて考えさせる(7分)。

・ 資料の読み取りに関するヒントカードや、小学校の教科書を参考にして考えさせる。

・ 学習班毎(2班)に最初に考える政策を設定し、その後は考えやすい政策から取り組ませる。

③中心課題について意見交流を行う。

・ 2班ずつ4つの政策を分担し、「目指す社会のしくみ」と考えた根拠となる部分について意見交流させる(7分)。
・ 班で意見交流した内容を発表させ、板書で確認する。

・ 4つの政策で共通する目指した社会の仕組みについて、学級全体で意見交流を行い、達成度を確認する(5分)。

④学習内容をまとめる。

・ 自分の言葉でノートに文章表現でまとめるように指示する。
・ 教師のまとめを簡潔に板書「(例)日本国憲法のもとで行われた改革によって、様々な面で民主化が進んだ」し、生徒の記述表現を引用して口頭でまとめる。

⑤振り返り

・ 「分かったこと」「疑問に思ったこと」「調べてみたいこと」をノートに記述させる。

新見市ふるさとキャリア教育 推進事業

新見市立新見第一中学校

事業の趣旨 小学校～中学校共通

児童生徒の地域における職場体験等の活動をととして、**望ましい職業観や勤労観を育てるとともに、自己の生き方を考え、様々な課題を乗り越えながら学習や生活にチャレンジすることができるよう支援することで「生きる力」を育成する。**

新見市の豊富な地域資源や人材を活用し、学校、家庭、地域が連携した地域学習を行うことで、住んでいる**地域への愛着や地元貢献意識を育み、将来の新見市を担う人材の育成を目指す。**

学習プログラムの実施について

総合的な学習の時間等において、小学校からの体系的・系統的な「ふるさとキャリア教育」を位置付け、「出前授業」「ふるさと職場見学」「ふるさと職場体験」等の各学習プログラムをととして、**新見市の地場産業・文化・福祉について体験的、探究的に学ぶ。**

出前授業

- 新見みらいづくり会議実行委員会による、新見の産業や魅力についての紹介
- ・対象は全中学校の希望の学年
- ・実施日は、市教育委員会が各校の希望をもとに、講師と日程調整の上、決定する。
- ・授業は1授業時間とし、各校に1回講師を派遣する。
- ・講師謝金、交通費は市教育委員会が負担する。

ふるさと職場見学

○新見市内の事業所等を見学し、地場産業・文化・福祉について学ぶ。

- ・対象は全中学校1年生
- ・市教育委員会が各校の希望を取りまとめ、新見市キャリア教育推進協議会(以下「推進協議会」という。)に斡旋を依頼する。
- ・見学場所決定後、各学校で各事業所と連絡、調整を行い、事業を実施する。
- ・バスを利用する際は、各校でバスの手配をする。バス代は教育委員会が負担する。

ふるさと職場体験

○新見市内の事業所等で、地場産業・文化・福祉に係る職業を体験する。

- ・対象は全中学校2年生
- ・活動場所は、市教育委員会が各校の希望を取りまとめの上、推進協議会に斡旋を依頼する。体験場所決定後、各学校で各事業所と連絡・調整を行い、事業を実施する。

新見第一中学校の現状と課題

平成29年度より総合的な学習の時間の内容を再構築し、「**地域の人、もの、ことに自ら関わり自ら課題を探究し、自己の学びのよさや生き方を見つめる。**」を目標にしたプロジェクト学習を開始している。

このプロジェクト学習に中に、新たに始まる**”ふるさとキャリア学習”**の趣旨を組み込み、調査・体験学習を行いながら、3年間で、**地域を愛し地域活性化に向けての提言や具体的なアクションができるような生徒を育成していき**たい。

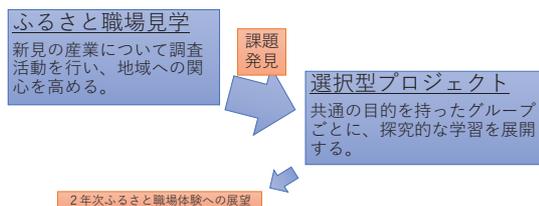
ねらい

”ふるさと新見”の産業を支え地域活性化のために取り組んでいる人々や組織を知り、**今、自分たちに何が求められているか、何ができるかを考えることができるようになる。**

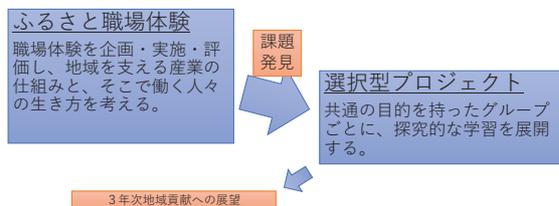
地域連携組織等実施体制について

- 校内ふるさとキャリア教育推進委員会
校長・教頭→主幹教諭（企画統括）→総合的な学習の時間責任者
→キャリア教育責任者
外部組織との連絡調整、校内企画の立案
- 学校運営協議会
ふるさとキャリア教育事業の方針を協議し承認と協力を得る。

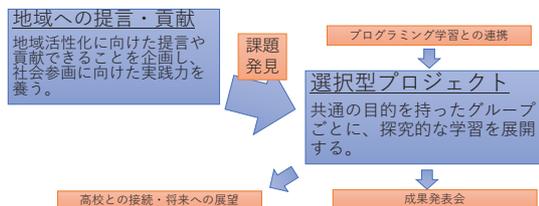
1年次 「新見発見プロジェクト」



2年次 「新見体験プロジェクト」



3年次 「新見貢献プロジェクト」



選択型プロジェクト学習の進め方

- 学年ごとに必要な時期に必要な時間を時間割に組み込む。
- 少人数編成か一斉学習かは、活動状況に応じて設定する。
- 少人数編成の場合、一方のグループは「プログラミング学習」を行う。内容は連動させる。

評価について

- 使用するワークシートや資料は全てファイルにまとめ、ポートフォリオとして評価する。
- プレゼンテーションでの評価を行う。
 - ・発表会
 - ・紙面発表
 - ・ビデオ発表等
- 評価の観点
 - ・課題設定の力
 - ・情報収集の力
 - ・将来展望の力
 - ・社会参画の力

留意点

- 学年ごとの活動は、活動報告書として教育委員会に提出する。
 - ・A4 1枚（学年責任者が作成 1月提出）
- 2年次、各職場への報告書冊子は不要（礼状のみ送付する）
- 全学年、総合的な学習の時間に位置付けている。
- 経費総額 約360,000円
 - ・総合的な学習の時間予算 約240,000円
 - ・ふるさとキャリア教育予算 120,000円
 - ・校外活動の際の交通費（バス代）を優先的に支出予定

令和元年度新見市ふるさとキャリア教育事業実施計画書

実施校名	新見市立新見第一中学校	
現状及び課題 (趣旨)	本校では、平成29年度より総合的な学習の時間の内容を再構築し、「地域の人、もの、ことに自ら関わり自ら課題を探究し、自己の学びのよさや生き方を見つめる。」を目標にしたプロジェクト学習を開始している。このプロジェクト学習に中に、新たに始まる”ふるさとキャリア学習”の趣旨を組み込み、調査・体験学習を行いながら、3年間で、地域を愛し地域活性化に向けての提言や具体的なアクションができるような生徒を育成していきたい。	
ねらい	”ふるさと新見”の産業を支え地域活性化のために取り組んでいる人々や組織を知り、今、自分たちに何が求められているか、何ができるかを考えることができるようになる。	
地域連携組織等実施体制について	<ul style="list-style-type: none"> ○校内ふるさとキャリア教育推進委員会 校長・教頭→企画統括(主幹教諭)→総合的な学習の時間責任者 →キャリア教育責任者 外部組織との連絡調整、校内企画の立案 ○学校運営協議会 ふるさとキャリア教育事業の方針を協議し承認と協力を得る。(6月に承認済み) 	
実施計画	<ul style="list-style-type: none"> ○1年次 <ul style="list-style-type: none"> ・新見発見プロジェクト (新見の産業について調査活動を行い、地域への関心を高める。) ・キャリアアッププロジェクト(職業調べを行い、自己の夢や適性と進路との関係を考える。) ○2年次 <ul style="list-style-type: none"> ・新見体験プロジェクト (職場体験を企画・実施・評価し、地域で働く人の生き方を考える。) ・キャリアアッププロジェクト(上級学校調べを通して自己の夢や適性と進路との関係を考える。) ○3年次 <ul style="list-style-type: none"> ・新見貢献プロジェクト (地域に貢献できることを企画し社会参画に向けた実践力を養う。) ・キャリアアッププロジェクト(自己理解・他者理解を通して自らの進路を具現化し、将来の自分を創造する。) 	
スケジュール	実施時期	実施内容 (※学校の取組を記入する。行追加可)
	6月～7月	1年 新見発見プロジェクト (ふるさと職場見学・まとめ・課題発見)
	10月～11月	1年 選択型プロジェクト (新見発見プロジェクトと関連付け、課題解決に向けて自らできることを主体的に行う。)
	2月	1年 キャリアアッププロジェクト (職業調べを行い、自己の夢や適性と進路との関係を考える。)
	7月～10月	2年 新見体験プロジェクト (ふるさと職場体験・まとめ・課題発見)
	11～12月	2年 選択型プロジェクト (新見体験プロジェクトと関連付け、課題解決に向けて自らできることを主体的に行う。)
	2月	2年 キャリアアッププロジェクト (上級学校調べを通して自己の夢や適性と進路との関係を考える。)
	6月～11月	3年 選択型プロジェクト (地域の課題を探り、地域活性化に向けての提言を主体的に行う。) ※成果発表会(学びの成果を学級単位で発表する。プログラミング学習とも連携させる。)
	11月～12月	3年 新見貢献プロジェクト (自ら地域に貢献できることを企画し、社会参画に向けた実践力を養う。)
	12月～1月	3年 キャリアアッププロジェクト (自己との対話や他者理解を通して進路との関係を具体化し、将来の自分を創造する。)
	1月	事業実施報告書・事業実施決算書の作成・提出
	随時	本校ホームページ上で学びの様子や成果を発信する。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ○評価場面 <ul style="list-style-type: none"> ・総合的な学習の時間の中で評価を行う。 ○評価方法 <ul style="list-style-type: none"> ・ポートフォリオでの評価 ・プレゼンテーションでの評価(発表会、紙面発表、ビデオ発表 等) ○評価の観点 <ul style="list-style-type: none"> ・課題設定の力 ・情報収集の力 ・将来展望の力 ・社会参画の力 	

第3回校内研修開催要項

令和元年7月30日(火)

9:00~10:30

於 被服室

今回の校内研修のねらい

☆すべての生徒に学びの保障をしよう → ・低学力の生徒へのアプローチ
・低～中学力生徒の学力向上・やる気アップ



どのような学び(授業)のスタイルがよいか?
学びタイムや放課後の活用は?

1 開会あいさつ (校長)

2 他地域の研修会より

(1) 総社市「誰もが行きたくなる学校づくり」について 教頭

(2) 県外視察より

小林 悟

3 協議

(1) 学びタイムの運営について

(2) 放課後学習サポート事業について

4 まとめ・閉会あいさつ(教頭)

新見市立新見第一中学校

令和元年度 公開授業研修会 要項

研究主題

主体的に学び合い、高め合う生徒の育成を目指して

ICT・プログラミング教育との関連

課題や特性に応じて ICT 機器（IWB、iPad、Pepper）を中心とする情報手段を適切に活用し、主体的に解決できるようになる。

期 日 令和元年 10 月 15 日（火）

日 程

公開授業

13:40～14:30

教科・領域	単元	学年学級	指導者	場所
社会科	日本国憲法と基本的人権	3年3組	有西陽路	3年3組教室
総合的な学習の時間	プロジェクト学習成果発表会 ～地域の課題を探り活性化に向けた提言をしよう～	3年1組	白神栄治	体育館
学級活動	沖縄の伝統菓子を学ぶ ～菓子づくりに向けての事前学習をしよう～	特別支援	藤野真美	あけぼの教室

研究協議

14:50～15:45

場所 体育館

形態 3つの分科会に分かれての協議

指導助言

15:50～16:10

場所 体育館

指導助言者 新見市教育委員会学校教育課 参事 光島由忠

新見市立新見第一中学校

令和元年度 公開授業研修会 研究協議

全体進行 主幹教諭 藤井 幸治

- 1 開会あいさつ 14:50～
校長 小藤 一成
- 2 研究協議 14:55～
協議進行 研究主任 谷岡 明日美

授業参観の視点

主体的に考え、学びとろうとした場面・要因

生徒同士が支え合ったり伝え合ったりした
場面と要因

- 3 指導講評 15:50～
新見市教育委員会学校教育課 参事 光島 由忠
- 4 閉会あいさつ 16:10～
教頭 大谷 忠宏

○本時の目標

- ・公共の福祉によって人権が制限されるのはなぜかを説明できる。

○指導上の留意点

- ・情報機器の活用
デジタル教科書を活用し、注目する資料を分かりやすくする。
- ・協働学習
個人思考をふまえて、学習班で意見交流し、考えを深めていく。

○評価の観点

- ・公共の福祉による人権の制限がどのような目的で行われているか、自分の考えを述べることができている。
〔関心・意欲・態度〕

- ・公共の福祉が何のために必要なのか説明することができる。
〔知識・理解〕

○準備物

- ・教科書
- ・資料集
- ・ノート
- ・IWB
- ・発表ボード

＜板書計画＞

授業の流れ

- 目標
- 自由権
- 公共の福祉
- 人権制限
- まとめ
- 振り返り

【目標】 公共の福祉によって人権が制限されるのはなぜかを説明できる。

【自由権】

みんなが自由や権利を主張したらどうなるか？

【公共の福祉】 (憲法 12・13条)

自由および権利が制限される。
例 高速道路の建設について

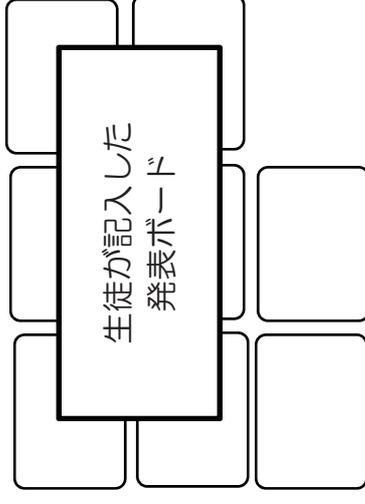
賛成か反対か

どこまで制限されるのか？

→ 裁判所が判断

【人権制限】

これらの自由や権利はなぜ制限されているのか。



【まとめ】

【振り返り】

＜本時の流れ＞

- ① 自由権の復習
- ② 本時の目標を確認する。
- ③ 公共の福祉について知る。
- ④ 8つの事例について、公共の福祉によってなぜ人権が制限されるのかを、個人で考える (グループ8分・全体10分)
- ⑤ 個人で考えたことをグループでまとめ、全体に発表する。
- ⑥ まとめ 例 「自分の自由や権利が他人の自由や権利を侵害する場合、公共の福祉のために人権が制限される」 (生徒に考えて書かせ、発表させる)
- ⑦ 振り返り 「分かったこと」「疑問に思ったこと」「調べてみたいこと」をノートに記述する。

○本時の目標

- ・情報機器を使って、プロジェクト学習の成果を分かりやすく表現できる。

○指導上の留意点

- ・情報機器の活用
発表内容に応じて効果的に情報機器を活用する。
- ・内容理解
ワークシートに必要な事項を書き込み、自分の考えや意見を持つことができる。

○評価の観点

- ・実生活の中から問いを見出し、課題を立て、情報を集め、整理・分析してまとめ、表現している。
〔思考・判断・表現〕

○準備物

- ・プロジェクト、スクリーン
- ・iPad
- ・Pepper
- ・ワークシート
- ・ホワイトボード

＜板書計画＞

目標

情報機器を使って、プロジェクト学習の成果を分かりやすく表現できる。

授業の流れ

プロジェクト学習テーマ

目標
発表
まとめ
振り返り

地域の課題を探り“新見活性化”に向けての提言をしよう。

チーム1 (医療)

チーム3 (ボランティア)

チーム2 (産業)

チーム4 (生活)

＜本時の流れ＞

- ① プロジェクト学習について振り返る。
- ② 目標を確認する。
- ③ チーム1から発表をする。(8分以内)
話し手はiPad、Pepper、プロジェクト、スクリーンを使う。
聞き手は、発表を聞きながら、質問を考える。
- ④ 気づきや感想をまとめる。
- ⑤ 振り返りをする。

○本時の目標

- ・サターアランダギーの材料とつくり方を調べ、説明することができる。

○指導上の留意点

- ・情報機器の活用
生徒の特性に応じて情報機器を正しく使用することができる。
- ・表現活動
「書く」「話す」など生徒の特性に応じた表現方法を選択できる。

○評価の観点

- ・サターアランダギーについて適切な方法で調べ、分かりやすく表現している。
[思考・判断・表現]

○準備物

- ・写真
- ・IWB
- ・iPad
- ・Pepper
- ・発表ボード、マーカー

<板書計画>

授業の流れ

- ① 目標
- ② 材料
- ③ 作り方
- ④ まとめ
- ⑤ 振り返り

沖縄について

海
ブレスレット
サターアランダギー

写真

写真

サターアランダギーの材料

発表ボード

発表ボード

発表ボード

発表ボード

黒糖→風味、コク

サターアランダギーつくりかた

発表ボード

発表ボード

発表ボード

発表ボード

【目標】 サターアランダギーの材料と作り方を調べ、説明することができる。

【まとめ】 「サターアランダギー」は、ホットケーキミックスと卵と黒糖を混ぜ合わせ、油で揚げてつくる。さとう 油であげる 沖縄では、サターアランダギーともいう。

<本時の流れ>

- ① 沖縄の菓子について知る。
- ② 目標を確認する。
- ③ サターアランダギーの材料を調べる。
生徒A：Pepper を使って調べ、分かったことを先生に伝える。
生徒B・C・D：iPad を使って調べ、分かったことを発表ボードに書く。(個人で)
- ④ サターアランダギーの作り方を調べる。
生徒A：Pepper を使って調べ、分かったことを先生に伝える。
生徒B・C・D：iPad を使って調べ、分かったことを発表ボードに書く。(3人で)
砂糖ではなく、沖縄特産品の黒糖を使うということを知る。
- ⑤ 分かったことをまとめ。
「サターアランダギー」は、ホットケーキミックスと卵と黒糖を水で混ぜ合わせ、油で揚げてつくる。
- ⑥ 振り返りとして、分かったことを言葉に出して話す。

社会科公開授業のようす



総合的な学習の時間公開授業のようす



特別支援学級公開授業のようす



これらの自由や権利はなぜ制限されているのか？

人権の内容	制限される場合	制限される理由
表現の自由	名誉を傷つける行為の禁止	
集会結社の自由	デモの規制	
居住・移転の自由	感染症による強制入院	感染症・・・人にうつりやすい病気
職業選択の自由	医師や調理師になるために資格が必要	
営業の自由	稀少動物の取引の禁止	※ 稀少動物・・・絶滅しそうな動物
労働基本権	公務員のストライキの禁止	※ 警察、消防も公務員です。 ※ ストライキ・・・仕事を止めること。
財産権の保障	街並みを守るために、建物の高さや色を制限。	
財産権の保障	不備な建築の禁止	

公開授業資料

3年生 総合的な学習の時間 プロジェクト学習発表会 プログラム集

ここに掲載している Pepper 制御プログラムは、今回発表する 4 チームが、「自分たちの思いを伝えるために趣向を凝らしたプレゼンテーションをしよう」という意図をもって作成したものです。通常のプレゼンテーションと異なり、生徒と Pepper が協働してプレゼンテーションをするスタイルになっています。

使用プログラミングアプリ RoboBlocks

使用 ICT 機器 Pepper、ノートパソコン、iPad、Wi-Fi 機器、プロジェクタ

生徒の ICT プログラミングに関する既習事項

1 年次：プログラミングの基礎学習・Pepper 制御 iPad による情報収集	【使用アプリ Choregraphe】 【使用アプリ Safari】
2 年次：プログラミングの応用学習・Pepper 制御 iPad プレゼンテーション作成	【使用アプリ Choregraphe】 【使用アプリ keynote】
3 年次：プログラミング実践学習・Pepper 制御	【使用アプリ RoboBlocks】

The image shows a RoboBlocks script for a medical team presentation. The script is triggered by a sensor detecting a head touch and is divided into seven numbered sections. Each section contains specific movements and speech bubbles. A separate block at the top right is triggered by a button click and sets a variable and starts a sensor.

Script Structure:

- Trigger:** 頭をさわられた ▾ が起きたとき
- Block 1:** センサ 頭をさわられた ▾ を 終了 ▾
変数 頭触る ▾ を 1 ずつ変える
もし 頭触る = 1 なら
動き 23_手をスーっと ▾ どうしましたか。 をしゃべる高さ 100 速さ 100
センサ 頭をさわられた ▾ を 開始 ▾
- Block 2:** もし 頭触る = 2 なら
ふーん...そうなんだね。 をしゃべる高さ 130 速さ 100
でもだいじょうぶだよ。最新の医療なら、すぐに原因がわかりよ。 をしゃべる高さ 130 速さ 115
センサ 頭をさわられた ▾ を 開始 ▾
- Block 3:** もし 頭触る = 3 なら
それじゃあ話すね。 をしゃべる高さ 130 速さ 115
動き 03_右手だけ横に広げる ▾ まず、機械の導入についてね。 をしゃべる高さ 100 速さ 100
機械の導入で、受付も変わってきているよ。 をしゃべる高さ 100 速さ 100
動き 01_右手をあげる ▾ 最近では、スマホのアプリで検診の予約ができるよ。 をしゃべる高さ 100 速さ 100
そのおかげで、時間の短縮ができるようになったよ。 をしゃべる高さ 100 速さ 100
動き 01_右手をあげる ▾ また、診断も変わってきているよ。最近では、テレビ電話で遠くのお医者さんに診察してもらえるよ。 をしゃべる高さ 100 速さ 100
センサ 頭をさわられた ▾ を 開始 ▾
- Block 4:** もし 頭触る = 4 なら
動き 02_左手をあげる ▾ そうだね。確かに新見でも取り入れられているね。 をしゃべる高さ 130 速さ 100
そのおかげで、早く診察できるようになって行けまいね。 をしゃべる高さ 100 速さ 100
センサ 頭をさわられた ▾ を 開始 ▾
- Block 5:** もし 頭触る = 5 なら
動き 05_両手を横に伸ばす ▾ じゃあ、次にドクターヘリについて話すね。 をしゃべる高さ 130 速さ 100
動き 54_コレです ▾ まず、事故が起きます。 をしゃべる高さ 100 速さ 100
次に、緊急現場から119番通報が着ます。 をしゃべる高さ 100 速さ 100
その通報が消防本部に伝わり、その内容、または現場救急隊の情報からドクターヘリ出動の必要性を判断し、必要であれば要請します。 をしゃべる高さ 100 速さ 100
動き 05_両手を横に伸ばす ▾ そして、ドクターヘリが出動するよ。 をしゃべる高さ 100 速さ 100
センサ 頭をさわられた ▾ を 開始 ▾
- Block 6:** もし 頭触る = 6 なら
うん。じゃあ次に出動の条件を説明するね。 をしゃべる高さ 130 速さ 100
まず、8時30分から17時までが出動できます。また、飛行視界が5キロメートル以上じゃないとダメだよ。 をしゃべる高さ 100 速さ 100
そして、悪天候や強風のときは動けないよ。 をしゃべる高さ 100 速さ 100
センサ 頭をさわられた ▾ を 開始 ▾
- Block 7:** もし 頭触る = 7 なら

Separate Block (Top Right):

- がクリックされたとき
- 16_おじぎ ▾ の動き
- 変数 頭触る ▾ を 0 にする
- センサ 頭をさわられた ▾ を 開始 ▾

```

動き 03_右手だけ横に広げる ▾ じゃあ、新見のことについて話すね。 をしゃべる高さ 130 速さ 115
これを見て。これは到達距離と所要時間だよ。 をしゃべる高さ 100 速さ 100
30キロメートルだと10分、50キロメートルだと17分、70キロメートルだと24分になるよ。 をしゃべる高さ 100 速さ 100
この付近だと、川崎医大からだから、新見には17分ぐらいでくるね。 をしゃべる高さ 100 速さ 100
センサ 頭をさわられた ▾ を 開始 ▾

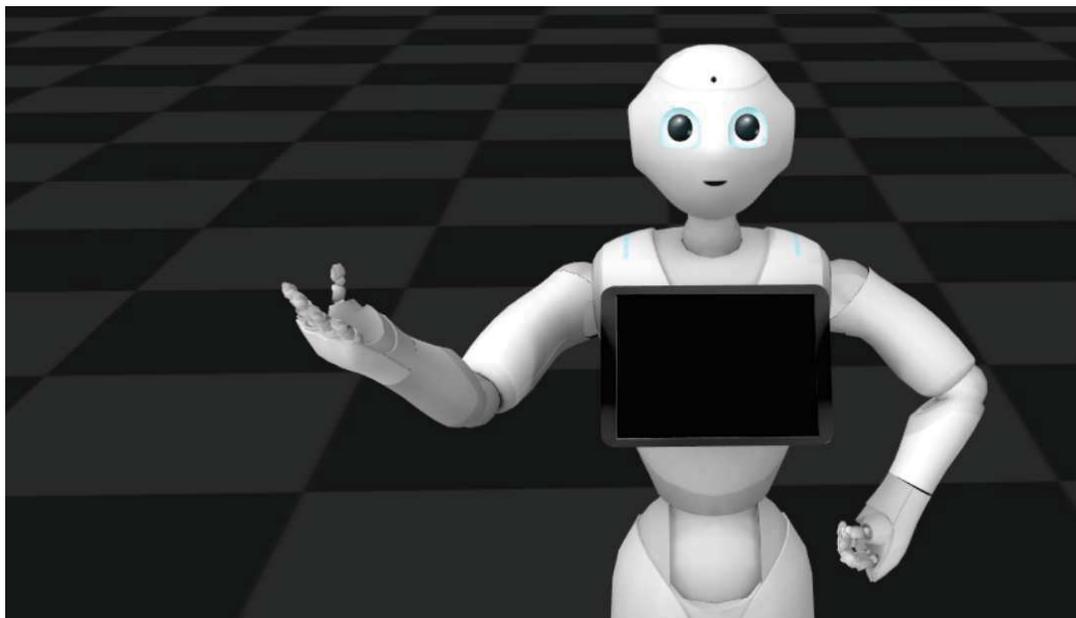
もし 頭触る = 8 なら
うん。確かに新見の医業はいいところが多いと思うよ。 をしゃべる高さ 130 速さ 100
動き 09_首を横に振る ▾ でも、利用者にはこんな声もあるよ。 をしゃべる高さ 100 速さ 100
センサ 頭をさわられた ▾ を 開始 ▾

もし 頭触る = 9 なら
動き 基本姿勢 ▾ うん。これは今後の新見の課題にもなっていくと思うよ。 をしゃべる高さ 130 速さ 100
だから、僕はこの対策を考えて見たよ。 をしゃべる高さ 100 速さ 100
動き 13_片手でどうぞ ▾ それがこれだよ。 をしゃべる高さ 100 速さ 100
このように、新見の病院にない科をもっと取り入れたり、休日検診の病院を増やしていけば、もっと新見の医療が発達していくと思います。 をしゃべる高さ
センサ 頭をさわられた ▾ を 開始 ▾

もし 頭触る = 10 なら
動き 77_バイバイ ▾ 堂いまして。 をしゃべる高さ 130 速さ 115
センサ 頭をさわられた ▾ を 開始 ▾

もし 頭触る = 11 なら
動き 28_ミニガッツポーズ ▾ そうだね。これからがんばらないとね。 をしゃべる高さ 130 速さ 115
動き 16_おじぎ ▾ の動き

```



```

    頭をさわられた ▾ が起きたとき
    センサ 頭をさわられた ▾ を 終了 ▾
    変数 頭触る ▾ を 1 ずつ変える
    もし 頭触る = 1 なら
        あるよっ をしゃべる高さ 130 高さ 90
        センサ 頭をさわられた ▾ を 開始 ▾
    もし 頭触る = 2 なら
        例えば、石灰とピオーネがあるよ。 をしゃべる高さ 130 高さ 90
        画像を表示: 2択ボタン1 ▾
        どっちを選ぶ? をしゃべる高さ 130 高さ 90
        画面のタッチ待受を 開始 ▾
    もし 頭触る = 3 なら
        画像を表示: 2択ボタン2 ▾
        新見市はトマトとキャビアも有名なだよ。 をしゃべる高さ 130 高さ 90
        どっちを選ぶ? をしゃべる高さ 130 高さ 90
        画面のタッチ待受を 開始 ▾
    もし 頭触る = 4 なら
        そうだよっ。 をしゃべる高さ 130 高さ 90
        僕たちで広めて、新見をもっと素敵な町にしよう。 をしゃべる高さ 130 高さ 90
        センサ 頭をさわられた ▾ を 開始 ▾
    もし 頭触る = 5 なら
        ばいばい をしゃべる高さ 130 高さ 90
        16_おじぎ ▾ の動き
        センサ 頭をさわられた ▾ を 開始 ▾

    がクリックされたとき
    16_おじぎ ▾ の動き
    頭触る ▾ を 0 にする
    センサ 頭をさわられた ▾ を 開始 ▾

    画面がさわられたとき
    画面のタッチ待受を 終了 ▾
    もし 頭触る = 2 なら
        もし 200 < 画面のさわられた位置 たて軸 ▾ かつ 画面のさわられた位置 たて軸 ▾ < 800 なら
        もし 0 < 画面のさわられた位置 よこ軸 ▾ かつ 画面のさわられた位置 よこ軸 ▾ < 640 なら
            石灰とは不思議な資源なんだ。 をしゃべる高さ 130 高さ 90
            石灰は、石灰岩として石灰鉱山から産出しているんだ。 をしゃべる高さ 130 高さ 90
            石灰岩からは、ウミユリやフズリナなどの、数億年前の化石が多く発見されているんだ。 をしゃべる高さ 130 高さ 90
        2 秒待つ
    
```

みんなは、まき回って知ってる? をしゃべる 高さ 130 速さ 90

まき回も、石灰と関係があるんだよ。 をしゃべる 高さ 130 速さ 90

まき回も、石灰岩でできたカルスト台地の上にある洞窟なんだよ。他にも、伊くら回、もあるけどね。 をしゃべる 高さ 130 速さ 90

2 秒待つ

また、新見市では、この石灰をモチーフにした、こいしクッキーをつくっているんだ。 をしゃべる 高さ 130 速さ 90

こいしクッキーには、新見産の石灰石で作られた、炭酸カルシウムが入っているんだよ。 をしゃべる 高さ 130 速さ 90

プレーン味と、ココア味があって、とってもおいしいよ。 をしゃべる 高さ 130 速さ 90

みんなにも食べてほしいな。 をしゃべる 高さ 130 速さ 90

画面のタッチ待受を 開始

センサ 頭をさわられた を 開始

もし 641 < 画面のさわられた位置 よこ軸 > かつ 画面のさわられた位置 よこ軸 < 1280 なら

新見ではおなじみの、A級グルメのピオーネだよ。 をしゃべる 高さ 130 速さ 90

ピオーネの魅力はみんな知っているの、また今度。 をしゃべる 高さ 130 速さ 90

画面のタッチ待受を 開始

センサ 頭をさわられた を 開始

もし 頭触る = 3 なら

もし 200 < 画面のさわられた位置 たて軸 > かつ 画面のさわられた位置 たて軸 < 800 なら

もし 0 < 画面のさわられた位置 よこ軸 > かつ 画面のさわられた位置 よこ軸 < 640 なら

トマトっておいしいよね。 をしゃべる 高さ 130 速さ 90

画面のタッチ待受を 終了

4 秒待つ

新見市には、甘いトマトもあるよ。 をしゃべる 高さ 130 速さ 90

フルーツトマトという種類は、実がしつかりして、とっても甘いよ。 をしゃべる 高さ 130 速さ 90

熟成完熟、フルーツトマトの美味しさと甘さをそのまま瓶に詰め込んだジュースは、とっても美味しいんだ。 をしゃべる 高さ 130 速さ 90

トマト、そのまま使っているから、きれいな赤色と黄色をしているよ。 をしゃべる 高さ 130 速さ 90

インスタばえにもびったりだね。 をしゃべる 高さ 130 速さ 90

しかも、7月から10月は、フルーツトマトがりができるんだよ。 をしゃべる 高さ 130 速さ 90

家族とでも友達とでも楽しむことができるね。 をしゃべる 高さ 130 速さ 90

4 秒待つ

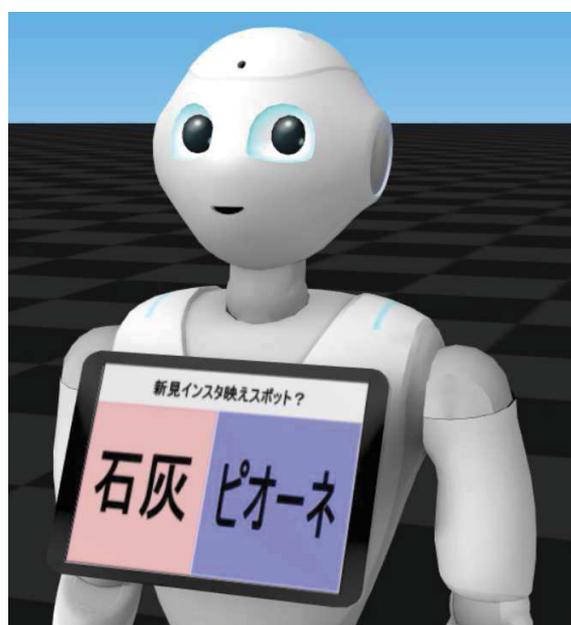
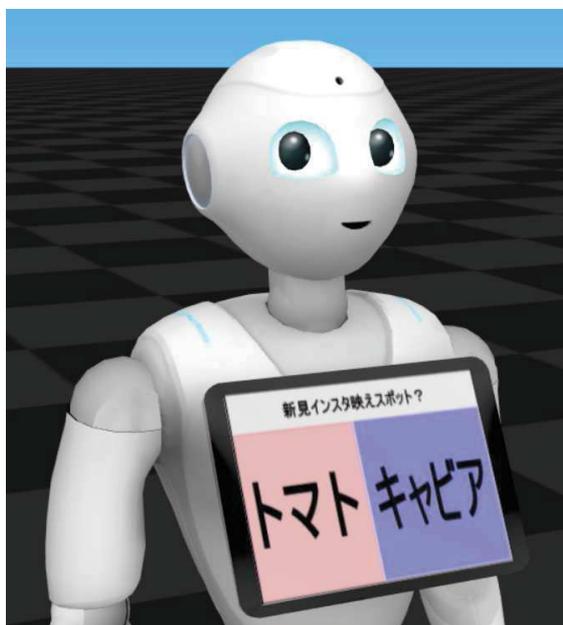
新見市には、甘みと酸味のバランスが抜群の桃太郎トマトもあるよ。 をしゃべる 高さ 130 速さ 90

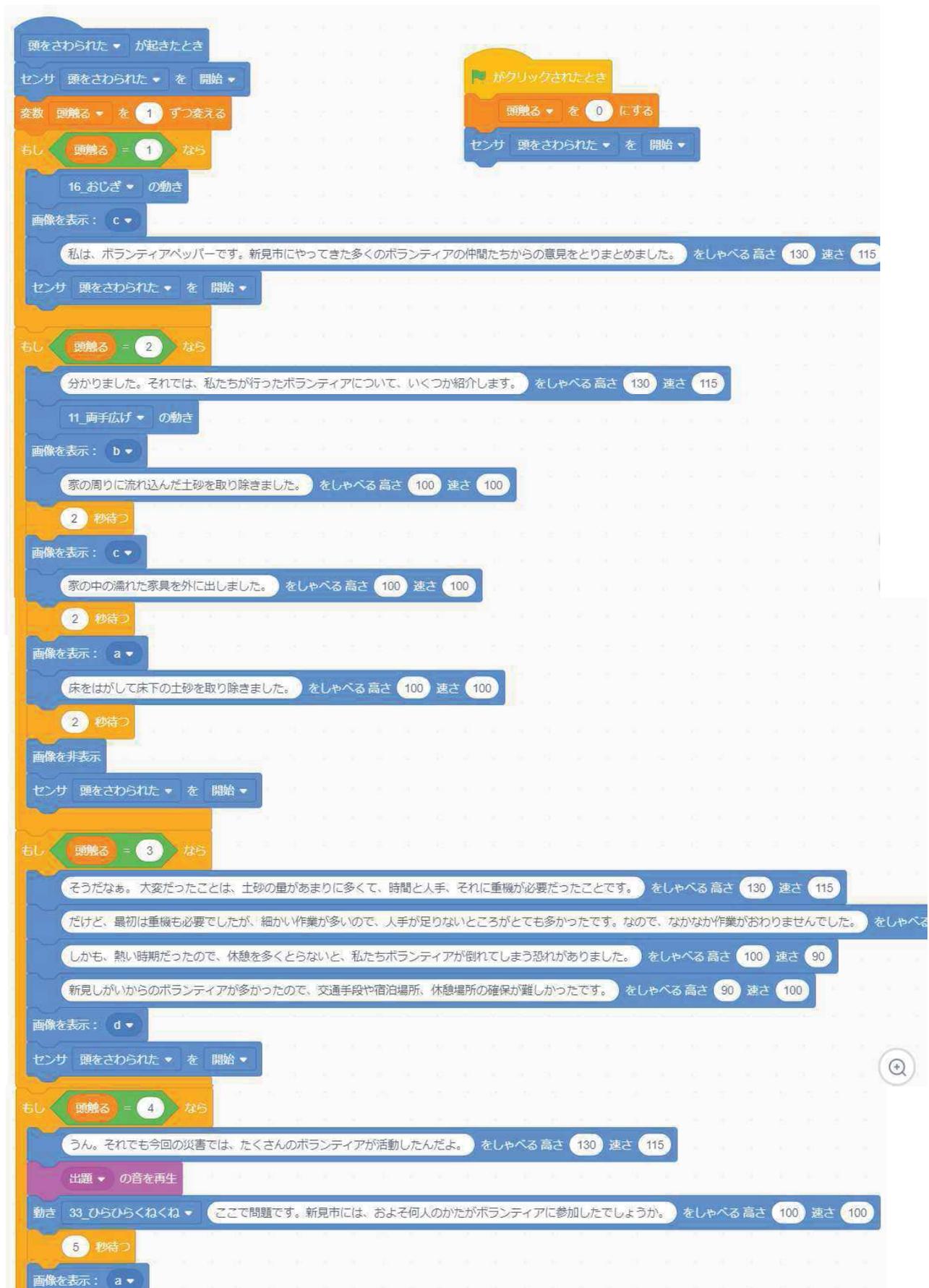
甘みと酸味のバランスが良いから、子供からお年寄りまで誰もが食べやすいよ。 をしゃべる 高さ 130 速さ 90

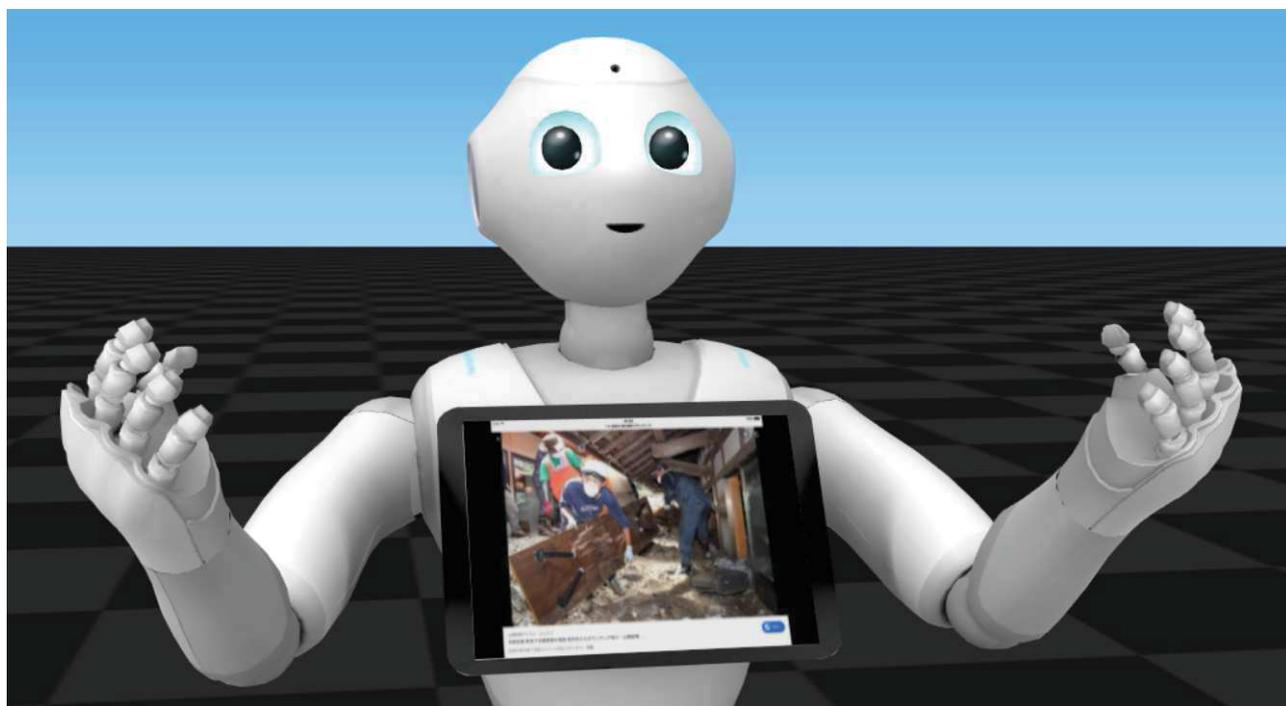
トマトの果実が丸ごと入っているよ。 をしゃべる 高さ 130 速さ 90

果肉たっぷりだから、しつかりトマトを感じるができるね。 をしゃべる 高さ 130 速さ 90

シロップを使っているから、トマト特有の青臭さもほとんど感じられないくらい甘いから、なまのトマトが苦手な人も食べられるよ。 をしゃべる







The script is triggered by the event "がクリックされたとき" (When clicked). It begins with a "動き" (Motion) block "16 おじぎ" (Bow) and a "しゃべる" (Speak) block "はい、どうもベッパーです。" (Hello, thank you very much). This is followed by another "しゃべる" block: "今回は、にいミが住みたい街になるよう考察してみました！" (This time, we have researched how Niimi can become a town you want to live in!).

The script then uses a "動き" block "04 左手だけ横に広げる" (Extend left hand horizontally) with the text "僕たちの会話の中でそのような要素がわかりやすく説明されているので" (In our conversation, such elements are explained clearly). This is followed by "動き" block "05 両手を横に伸ばす" (Extend both hands horizontally) with the text "ごゆっくりご覧ください" (Please take your time to look). A "センサー" (Sensor) block "頭触る" (Head touch) is set to "0" (Off).

The main logic is controlled by a "センサー" (Sensor) block "頭をさわられた" (Head touched) set to "開始" (Start). A "変数" (Variable) block "頭触る" (Head touch) is set to "1" (1) and then "ずつ変える" (Increase by 1). A "もし" (If) block "頭触る = 1" (Head touch = 1) leads to a "しゃべる" block: "では、早速ですが皆さんは現在のにいミでの生活に満足していますか？" (Well, first of all, are you satisfied with your current life in Niimi?). This is followed by a "文字" (Text) block "満足している?" (Satisfied?) and a "丸ゴシック" (Round Gothic) font style. A "8 秒待つ" (Wait 8 seconds) block follows, then a "動き" block "34 頭を抱える" (Hug head) with the text "そうですね、やはり住みたい街としての条件はまだ足りないように感じます" (That's right, I still feel that the conditions for a town I want to live in are not enough). A "センサー" (Sensor) block "頭をさわられた" (Head touched) is set to "開始" (Start).

The next "もし" (If) block "頭触る = 2" (Head touch = 2) leads to a "文字を非表示" (Hide text) block, followed by a "しゃべる" block: "では、スクリーンを見てください" (Well, please look at the screen). This is followed by a "動き" block "01 右手をあげる" (Raise right hand) with the text "これは、私たちが、実際に、にいミに住んでいる人にインタビューしたときの意見をまとめたものです。" (This is a summary of opinions from an interview with people who actually live in Niimi). This is followed by two more "しゃべる" blocks: "自然豊かで、イースポーツなど、時代の先を行くようなものが注目されているなかで" (In a time when natural abundance and things like esports are attracting attention) and "逆に、昔からあるものが生かされていない、医療福祉が不十分などの厳しい意見も、おおくありました。" (Conversely, there were many strict opinions, such as traditional things not being preserved and insufficient medical and welfare services).

The next "もし" (If) block "頭触る = 3" (Head touch = 3) leads to a "しゃべる" block: "では、どのヨウにしたら、実際にたくさんの人が住みたい街になるか説明していきたいと思います" (Well, how should we explain how to make Niimi a town that many people want to live in?). This is followed by another "しゃべる" block: "まず、アンケートの結果を基に、あるものを生かす、ということを第一優先にするべきだと考えます。" (First, based on the survey results, I think we should prioritize preserving what we have).

The next "もし" (If) block "頭触る = 4" (Head touch = 4) leads to a "しゃべる" block: "例をあげて解説しましょう。" (Let's explain with examples). This is followed by a "しゃべる" block: "これは、あるサイトに掲載されている、新見市の良いところをまとめた資料です。" (This is a document summarizing the good points of Niimi City, which is posted on a certain website). This is followed by a "しゃべる" block: "アンケートでは、指摘されていた古くからのものを活かす、という部分では「いくらどう」や「ミムろきょう」、指定天然記念物の金ポタルなど" (In the survey, regarding the part of utilizing old things mentioned, "Ikura Dou" and "Mimurokyou", designated natural monuments like Kinpotaru, etc.). This is followed by a "しゃべる" block: "調べれば調べるほど、有り余る数の有名になりそうなスポットなどの良いところがたくさんありました。" (The more we investigate, the more good spots and places that could become famous are found). This is followed by a "しゃべる" block: "では、それをどのようにすれば知ってもらえるか考えていきましょう" (Well, let's think about how to let everyone know about these).

The next "もし" (If) block "頭触る = 5" (Head touch = 5) leads to a "動き" block "18 両手をドーン" (Doh! with both hands) with the text "これは、古いモノを新しいモノでPRする、ということが有効であると考えられます。" (This is a thought that promoting old things with new things is effective). This is followed by a "しゃべる" block: "昨今ではSNSが流行っていて、私たち中学生でも多様な情報を発信、閲覧、共有できる世の中となっています。" (These days, SNS is popular, and even middle school students like us can disseminate, view, and share diverse information). This is followed by a "しゃべる" block: "これを活用することで、にいミ市が中心となって、イベント情報や、名所の写真などを投稿することで、より多くの人を訪れる機会が増えるきっかけになるのではない" (By utilizing this, Niimi City can become the center, and by posting event information and photos of famous spots, it can become a starting point for more people to visit). The script ends with a "センサー" (Sensor) block "頭をさわられた" (Head touched) set to "開始" (Start).

もし 頭離る = 6 なら

次に、今度は、あるもの以外で、より住みたい街にするにはどうすればよいでしょうか？ をしゃべる高さ 145 速さ 115

これには、医療と教育の充実が大切だと考えます。 をしゃべる高さ 145 速さ 115

動き 07_左を見る ▾ 先程の資料でも掲載されていたとおり、にいミ市では市内中心部だけでなく、郊外でも非常に快適なインターネット環境が整備されています。

動き 06_右を見る ▾ それらを使うことで、さいしんの医療技術を学んだり、教育でも、授業などで今まで以上に活用することでさらなる発展につながるのでは

センサ 頭をさわられた ▾ を 開始 ▾

もし 頭離る = 7 なら

では、これまでの話をまとめていきます。 をしゃべる高さ 145 速さ 115

新見を、住みたい街にするには!!! をしゃべる高さ 145 速さ 115

動き 72_必死の訴え ▾ 名所や特色をSNSで発信して沢山の人の知ってもらおうことー！ をしゃべる高さ 145 速さ 95

動き 72_必死の訴え ▾ ICTを使って、教育や医療を更に充実させること をしゃべる高さ 145 速さ 95

これら2つが今すぐできて、非常に、効果的な、改善策になるのではないのでしょうか をしゃべる高さ 145 速さ 110

しかしながら、最近は豪雨災害や記録的大雨などの自然災害が新見市で起こることも増えています。 をしゃべる高さ 145 速さ 100

勿論、今まで説明してきたように街を良くして「すみたい！」と思ってもらうことも重要です。 をしゃべる高さ 145 速さ 100

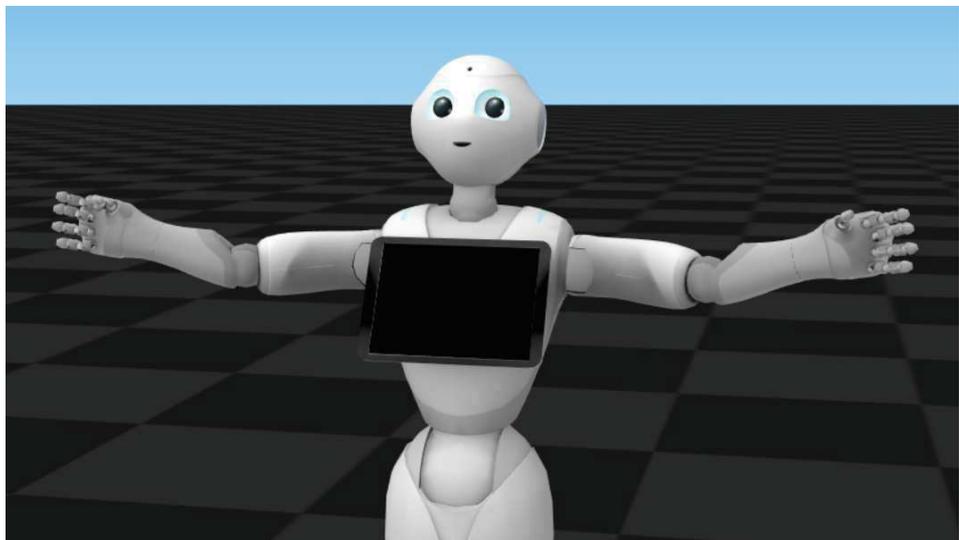
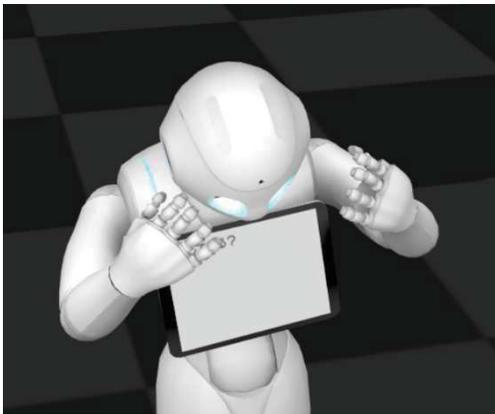
ですが、「晴れの国、災害の少ない国」と言われて備えができていなかったのも事実です をしゃべる高さ 145 速さ 100

動き 72_必死の訴え ▾ だからこそ、今、本当に、一番大事なのは、「災害に対する備え」を市、全体で大人から子供まで浸透させることだと考えています。

その安心感があるこそ、より、住みたい街に発展する、きっかけになるのではないのでしょうか をしゃべる高さ 145 速さ 100

僕たちも、これからのにいミを活気あふれるような街にできるように頑張ります！ をしゃべる高さ 145 速さ 110

16_おじぎ ▾ の動き



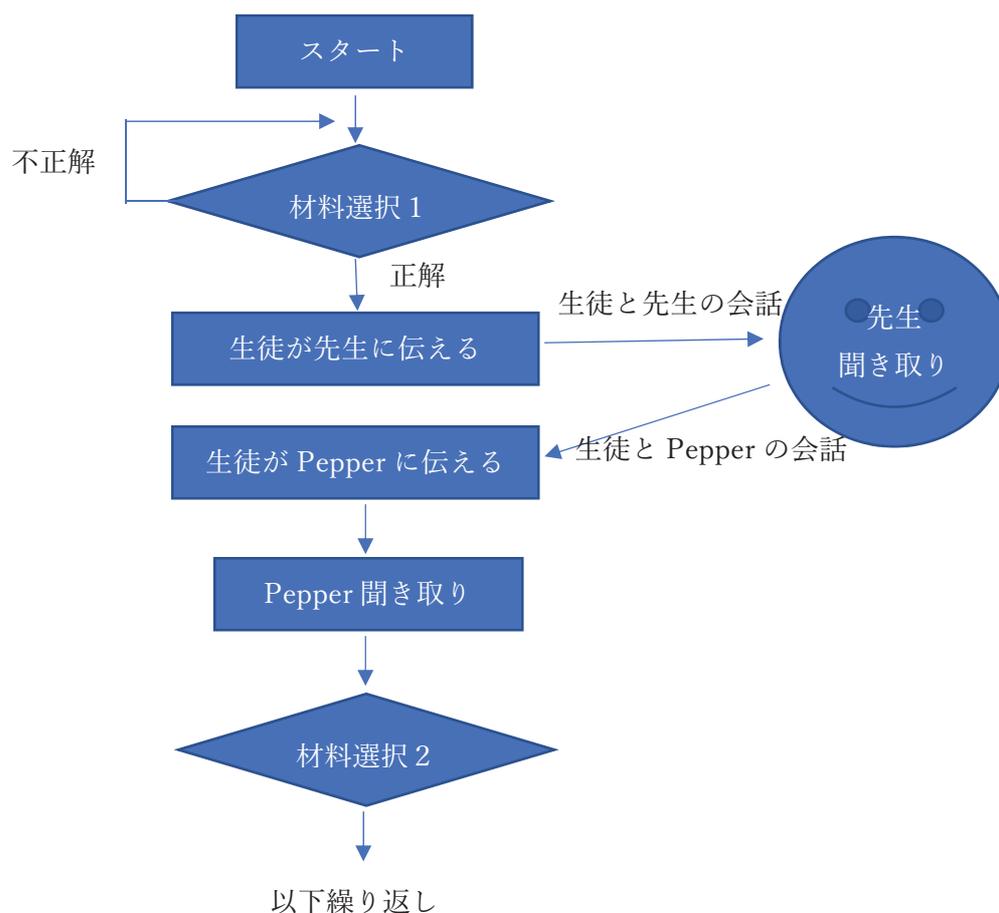
公開授業資料

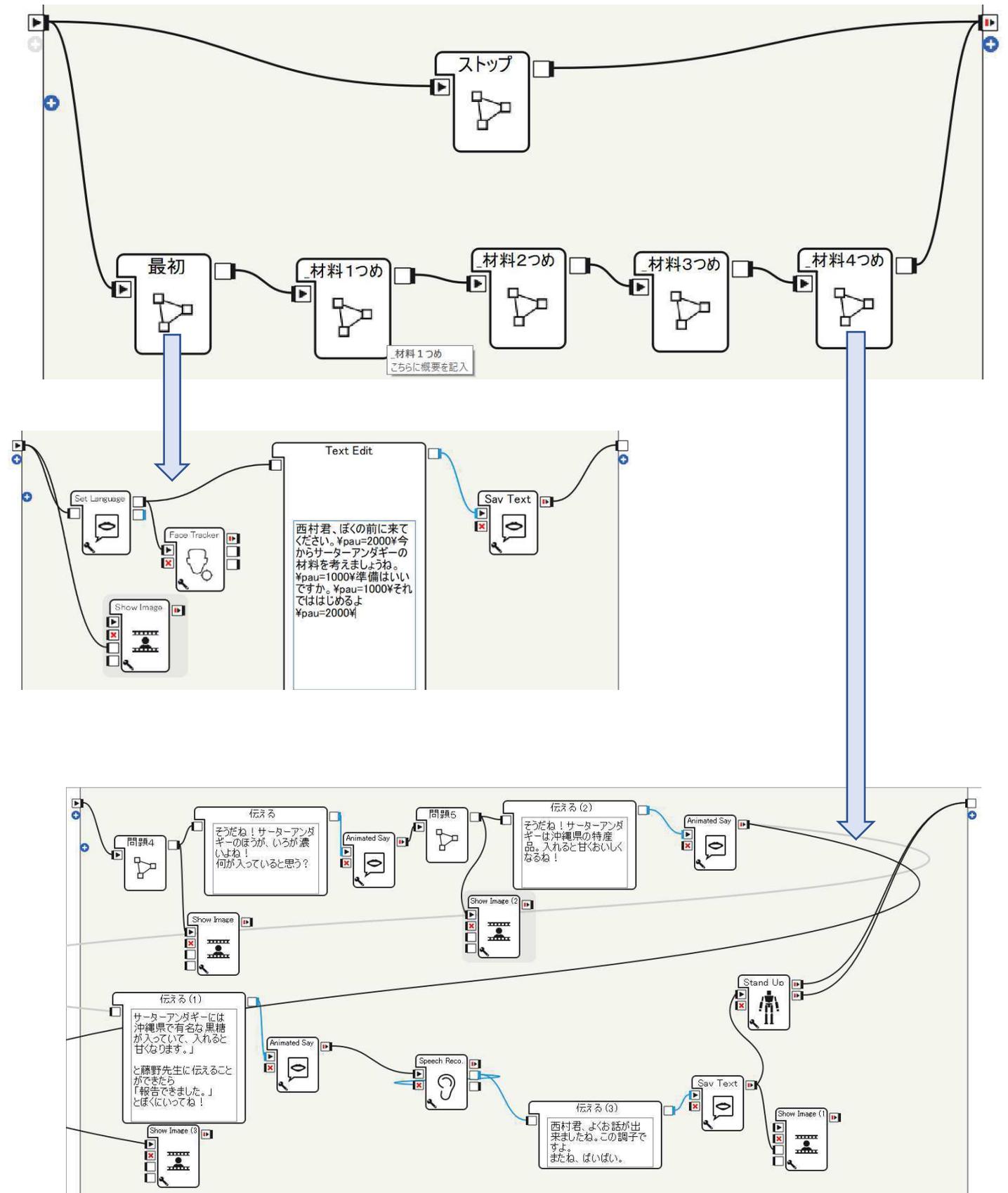
特別支援あけぼの学級 学級活動 Pepper 制御プログラム（抜粋）

ここに掲載している Pepper 制御プログラムは、特別支援学級 4 人のうちの 1 人に対して、生徒個人の特性に合わせて Pepper を使って会話練習をしていくものです。

使用プログラミングツール Choregraphe

プログラムフローチャート





第1学年3組 外国語科学習指導案

令和元年10月17日(木) 第5校時 1年3組教室 指導者 中務 翔・ALT Nicole

1 単元名 Sunshine English Course 1 Program 9 「現在進行形」

2 単元の目標

○ペアワークや発表する際に間違いを恐れず、積極的に言語活動に取り組む。

[コミュニケーションへの関心・意欲・態度]

○現在進行形を用いて質問をし、適切に答えることができる。

[外国語表現の能力]

○現在進行形を表す表現を含んだ英文を読んで、その内容を理解し、要点や概要をつかむことができる。

[外国語理解の能力]

○現在進行形を表す表現の語法や文の構造を理解することができる。

[言語や文化についての知識・理解]

3 単元の評価規準

コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
・言語活動において、現在進行形を用いて質問をしたり、質問に答えたりしようとしている。	・現在進行形を表す表現を含む文で、自分がしていることや相手に対する質問などを書くことができる。	・現在進行形を表す表現を含んだ英文を読んで、その内容を理解し、要点や概要をつかむことができる。	・現在進行形を表す表現に関する知識を身につけている。

4 指導と評価の計画 (全6時間)

次	時	主な学習活動	評価の観点				評価規準及び評価方法
			関	表	理	知	
一	1	・現在進行形を表す表現be ~ingの用法を理解している。[本時]	○			○	・言語活動に積極的に取り組んでいる ・現在進行形 be~ing の語法や文を構成する知識を理解している。 [ワークシート]
	2	・New words の確認をし、本文の内容を理解することができる。 ・現在進行形の振り返りをする		○	○		・語句や表現、文法事項などの知識を活用し、正しく本文の内容を理解することができる。 ・自分が何をしているかを現在進行形の英文で書くことができる。 [ワークシート]

二	1	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第一次の小テスト ・ 現在進行形の疑問文、それに対する答え方を理解している。 		◎	○	<ul style="list-style-type: none"> ・ 言語活動に積極的に取り組んでいる ・ 現在進行形 be~ing の疑問形の語法や文を構成する知識を身につけている。[ワークシート]
	2	<ul style="list-style-type: none"> ・ New words の確認をし、本文の内容を理解することができる。 ・ 現在進行形の疑問文の振り返りをする。 		○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・ 語句や表現、文法事項などの知識を活用し、正しく本文の内容を理解することができる。 ・ 現在進行形の疑問文、それに対する答え方、現在進行形の文を英文で書くことができる。[ワークシート]
三	1	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第二次の小テスト ・ what の入った現在進行形の疑問文とそれに対する答え方を理解している。 		◎	○	<ul style="list-style-type: none"> ・ 言語活動に積極的に取り組んでいる ・ what の入った現在進行形 be~ing の疑問形の語法や文を構成する知識を身につけている。[ワークシート]
	2	<ul style="list-style-type: none"> ・ New words の確認をし、本文の内容を理解することができる。 ・ what の入った現在進行形の疑問文の振り返りをする。 		○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・ 語句や表現、文法事項などの知識を活用し、正しく本文の内容を理解することができる。 ・ what の入った現在進行形の疑問文、それに対する答え方、現在進行形の文を英文で書くことができる。[ワークシート]

5 指導上の立場

○ 単元観

本単元では、現在進行形 **be ~ ing** が初めて導入され、現在進行形に関する文法を学習することになる。現在形と現在進行形の違いを繰り返し説明し、現在進行形の文章を書くときに **be** 動詞と **ing** を入れなければいけないということを意識できるようにしていく。

本単元の話題はお正月の一場面である。生徒にはお正月の場面ということを確認し少しでも興味をもって本文に取り組んでいけるようにしていきたい。

○生徒観

本学級の生徒は、音読や言語活動に対して意欲的に取り組む生徒が多い。しかし、英語に対する苦手意識を持っている生徒がおり、落ち着きのない生徒も少数いるクラスである。

しっかりと生徒が発言できる時間や活動できる時間を作り、生徒の苦手意識をなくしつつ、個人で考えて問題を解く時間を確保して、英語の力を伸ばせるようにしていきたい。

また個人で考えて問題を解いた後にグループになってお互いの答えを確認し合い、協力して学習を進めていきたい。

○指導観

特定の生徒ばかりが発表することにならないように、ランダムで当てたり、criss cross ゲームなどをしたりして、生徒たちが全員発表するようにしていきたい。また、グループで考え、答えに対する自信を持ってから発表をするようにして、発表することに対しての苦手意識を取り除いていきたい。

その単元の文法を繰り返し使うような場面を作り、文法の定着を図っていきたい。また、パートが終わるごとに小テストを行うことで、その単元の新出単語や文法の定着を図っていきたい。

○研究主題との関連

「主体的に学び合い、高め合う生徒の育成」の視点から、生徒が主体的に学び、学んだことをお互いに教え合うような環境をつくっていききたいと考えている。そのために、グループで答えを確認し合う時間を作ったり、アクティビティなどで生徒同士が交流したりする時間を多くつくっていく。

6 本時案（第一次 第1時）

(1) 本時の目標

○言語活動に積極的に取り組もうとする。

(コミュニケーションへの関心・意欲・態度)

○現在進行形 be～ing の語法や文を構成する知識を身につけている。

(言語や文化についての知識・理解)

(2) 展 開

学習活動	教師の指導・支援	学習評価
1 あいさつを行う	○天気、曜日、日付についてのQAを行う。	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>めあて：現在進行形を用いて、様々な動作を英文で表現できる。</p> </div>		
2 現在進行形を用いた表現を学習する		
(1)口頭で導入を行う	○教師とALTがジェスチャーをしながら現在進行形の英文	
(2)パワーポイントで本時の要点をつかむ	を言うのを何度か繰り返す。 ○文法の説明をし、いくつかフレーズを出し生徒たちに現在進行形の文になおすように指示し、その文章を音読するのを繰り返す。	
(3)教科書のBasic Dialogで現在進行形の形を再度確認する		
3 教科書にあるリスニング問題を行う	○答え合わせの際に問題文をもう一度読み、現在進行形が使われている箇所はどういう意味なのかを確認をする。 ○ルール説明をきちんと行う。	積極的に動き、きちんとした英文を言おうとしている。
4 現在進行形を用いたアクティビティを行う	カルタ ○きちんと正しい英文が言えているかクラスを周りながら確認する。	[関心・意欲・態度]
5 学習内容についての振り返りを行う。	○ワークシートで現在進行形を用いた文章をいくつか書かせる。グループを作り、答えを確認し合った後に全体で答え合わせをする。	○現在進行形を用いて正しく文章を書くことができる。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>まとめ：現在進行形は 主語＋be 動詞＋動詞 ing～で表す。</p> </div>		
<p>[外国語表現の能力]</p>		

- ◎「満足できる」状況 (A) と判断する生徒の姿の例
現在進行形の文法を理解している。言語活動に積極的に参加している。
- ◎「おおむね満足できる」状況 (B) と判断する生徒の姿の例
ミスはあるものの現在進行形の文法を把握している。言語活動に参加している。
- ◎「努力を要する」状況 (C) と判断する生徒の姿の例
現在進行形の文法が全く理解できていない。言語活動に参加しない。

第1学年1・2組女子 保健体育科 学習指導案

令和元年10月15日(木) 第5校時 体育館 指導者 久津間 友紀

1 単元名 器械運動(マット運動)

2 単元の目標

- (1) マット運動に積極的に取り組むとともに、よい演技を認めようとする、分担した役割を果たそうとすることなどや、健康・安全に気を配ることができる。
【運動への関心・意欲・態度】
- (2) マット運動では、回転系や巧技系の基本的な技を滑らかに行うこと、条件を変えた技、発展技を行うこと、それらを組み合わせ演技することができる。
【運動の技能】
- (3) マット運動の特性や成り立ち、技の名称や行い方、関連して高まる体力などを理解し、課題に応じた運動の取り組み方を工夫できる。
【運動についての思考・判断】 【運動についての知識・理解】

3 単元の評価規準

	運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能	運動についての知識・理解
単元の評価規準	<ul style="list-style-type: none"> ○ 運動の積極性を認める。 ○ 運動の積極性を認める。 ○ 運動の積極性を認める。 ○ 運動の積極性を認める。 ○ 運動の積極性を認める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習活動を通して、適切な学習方法を身に付ける。 ○ 学習活動を通して、適切な学習方法を身に付ける。 ○ 学習活動を通して、適切な学習方法を身に付ける。 ○ 学習活動を通して、適切な学習方法を身に付ける。 ○ 学習活動を通して、適切な学習方法を身に付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ マット運動の基本的な技を滑らかに行うことができる。 ○ マット運動の基本的な技を滑らかに行うことができる。 ○ マット運動の基本的な技を滑らかに行うことができる。 ○ マット運動の基本的な技を滑らかに行うことができる。 ○ マット運動の基本的な技を滑らかに行うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ マット運動の特性や成り立ち、技の名称や行い方、関連して高まる体力などを理解し、課題に応じた運動の取り組み方を工夫できる。 ○ マット運動の特性や成り立ち、技の名称や行い方、関連して高まる体力などを理解し、課題に応じた運動の取り組み方を工夫できる。 ○ マット運動の特性や成り立ち、技の名称や行い方、関連して高まる体力などを理解し、課題に応じた運動の取り組み方を工夫できる。 ○ マット運動の特性や成り立ち、技の名称や行い方、関連して高まる体力などを理解し、課題に応じた運動の取り組み方を工夫できる。 ○ マット運動の特性や成り立ち、技の名称や行い方、関連して高まる体力などを理解し、課題に応じた運動の取り組み方を工夫できる。
学習活動に即した評価規準	<ul style="list-style-type: none"> ① 楽しみながら積極的に取り組む。 ② 楽しみながら積極的に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 学習活動を通して、適切な学習方法を身に付ける。 ② 学習活動を通して、適切な学習方法を身に付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ① マット運動の基本的な技を滑らかに行うことができる。 ② マット運動の基本的な技を滑らかに行うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ① マット運動の特性や成り立ち、技の名称や行い方、関連して高まる体力などを理解し、課題に応じた運動の取り組み方を工夫できる。 ② マット運動の特性や成り立ち、技の名称や行い方、関連して高まる体力などを理解し、課題に応じた運動の取り組み方を工夫できる。

4 指導と評価の計画（全12時間）

次	時	ねらい・学習活動	評価規準				評価方法
			関	思	技	知	
一	1	◎オリエンテーション 1. マット運動の特性や、学習の目標やねらい、授業の流れを理解する。 2. ワークシートの活用方法を知る。 3. ウォーミングアップと準備運動の方法の確認。 ・ゆりかご、カエル逆立ち、前転、後転、壁倒立（補助倒立）など	① ②			①	・学習カード
二		◎基本的な動きの確認と基本技の習得 1時間目：「開脚前転」「開脚後転」 2時間目：「倒立前転」 3時間目：「倒立前転」「側方倒立回転」 4時間目：「側方倒立回転」「ロンダート」	②	① ②	① ②	①	・学習カード ・発言
	1 3 4	◎ポイントに留意して基本的な技を滑らかに行うための練習をする。 1時間目 【開脚前転・開脚後転】 回転力、下肢の開くタイミング 2時間目 【倒立前転】 腕支持と視線の位置、接触の順補助の仕方 3時間目 【倒立前転】腕支持と視線の位置、接触の順 4時間目（本時） 【側方倒立回転】 下肢の振り上げ方、 下肢の引きつけ方、 手足が一直線 【ロンダート】 かかとの振り上げ方 両足の揃え方	②	①	②	①	・学習カード ・発言 ・行動観察
三	1 3	◎グループに分かれてポイントを踏まえながらレベルアップに向けた練習をする。 1時間目：ポイントカードを確認しながら自分ができる技をグループで確認する。 2時間目：iPadを利用しながら、視覚的に個人の課題を把握する。 3時間目：個人の課題解決に向けた練習方法をグループで考える。	① ②	②	① ②		・学習カード ・発言 ・行動観察
四	1 3	◎発表会の練習 1時間目：発表会に向けて連続技の練習をする。 2時間目：発表会に向けて連続技の練習をする。 3時間目：発表会に向けて連続技の練習をする。		① ②	① ②		・学習カード
五	1	◎学習のまとめ 1. 発表会を行う 2. 振り返りとまとめをする。	① ③			①	・学習カード

5 指導上の立場

○単元観

器械運動は、器械の特性に応じて多くの技がある。これらの技に挑戦し、その技ができる楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。小学校では、技ができることや技を繰り返したり組み合わせたりすることを通して学習している。中学校では、これらの学習を受けて、技がよりよくできることや自己に適した技で演技することが求められている。したがって、第一学年では、技ができる楽しさや喜びを味わい、その技がよりよくできるようにする。また、器械運動の学習に積極的に取り組み、よい演技を認めることなどに意欲を持ち、健康や安全に気を配るとともに、技の行い方や練習の仕方などを理解し、課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにすることが大切である。

また、アドバイス、賞賛、補助などの相互援助活動を行う学習形態が作りやすく、生徒間での学び合いにより技能の向上を目指すことができる教材である。

○生徒観

3組女子13名、4組女子13名、計26名は、明るい生徒が多く、積極的に授業に参加し、リーダーを中心に声をかけることができる。一方で、教師の指示を待つだけで考えて行動することがなかなかできない生徒もいる。授業においては、苦手な生徒と得意な生徒との差が大きく、マット運動は小学校の時から学習している種目であるが、技の習得の状況は個人差が大きく、また苦手意識を持つ生徒も多く、できなかつた時は、落ち込む生徒も見受けられる。しかし、前向きな言葉かけができる生徒もいて、やる気を出す雰囲気を作り出すことができる。その中で、「できた」感覚を多く味わわせていきたいと考える。授業においては、iPadを利用してお互いに技のポイントを教え合い、より深めた学習としていきたい。

○指導観

保健体育科では、「仲間と協力し、継続して努力することによって得られる達成感を味わえる授業」を作りたいと考えている。そこで、「学習規律の徹底」「頑張れる集団作り」を大切に、授業に取り組んでいる。

マット運動は、できる、できないがはっきりしている運動である。マット運動を通して、できなかつたことができるようになる達成感を感じられる授業を展開したい。主に、回転系の技を中心に取り組み、得意な生徒の活躍の場の設定と、苦手な生徒が達成感を味わえるような活動の設定をしていきたい。初めから、教師がポイントを示すのではなく、生徒同士で成功のためのポイントを見つけ出し、工夫して練習に取り組むようにし、不得意な生徒が成功できるような環境を整えたい。そのために得意不得意に配慮したグループ作り、得意な生徒の示範、視覚教材の使用を取り入れた授業を展開したいと考えている。

○研究主題との関連

「主体的に学び合い、高め合う生徒の育成」の視点から、生徒が主体的に学び、基礎的・基本的な知識や技能を着実に習得しながら学び合う力を身につけさせたいと考えている。そのためにiPadを利用して、自己の実際を把握しながら仲間と課題解決に向けて、お互いに協力し合う姿勢を育て、技能の変化を実感できるようにする。また、振り返りの時間で仲間と学習カードに記入することで、相互に伝える力を高めるようにしている。

6 本時案（第二次 4時）

(1) 本時の目標

- 全身を支えたり、突き放したりするための着手の仕方、回転力を高めるための動き方を身につける。【運動の技能】
- 個人に合った課題解決に向けた練習方法を見つける。【運動についての思考・判断】

(2) 展開

学習内容・活動	教師の指導・支援	評価方法及び評価規準
1 器具の準備 出欠確認、挨拶	<ul style="list-style-type: none"> ○ 器具の準備・安全確認を仲間と協力して行えているか観察する。 ○ 点検 欠席・見学・爪・頭髪 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 観察 ○ 出欠カード 【関心・意欲・態度】
2 ランニング ラジオ体操 補強運動	<ul style="list-style-type: none"> ○ ランニング3周 ラジオ体操 腹筋、腕立て伏せ、馬跳び（各10回） 見学者は壁際で待たせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 大きな声を出しているか、回数をごまかしていないか。 【関心・意欲・態度】
3 本時のめあてを知る。 学習カードのポイントを踏まえて、友達と協力をしながら教え合い、練習する。		
4 基本動作	<ul style="list-style-type: none"> ○ からだの状況をしっかりと把握しながら学習に向かうように声をかける。 ・前転、後転、川跳び ・見学者は、レポートを書く。 	
5 側方倒立回転の練習 前時で確認したポイントを踏まえながら、技を滑らかなに行えるように練習する。	<ul style="list-style-type: none"> ○ iPadを用意する。 【確認するポイント】 ○ 大きく回転できているかどうか。（ゴム紐） ○ 真っすぐに回転できているかどうか。（テープを基準に回転する） 【教師の指導・支援】 ○ 習得している技に応じて、個々の練習を工夫する。 （補助・床に印をつける等） 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 練習方法を工夫したり、合理的な動き方を見つけてアドバイスしたりしているか。 【思考・判断】 （発言）（観察） （学習カード）
6 本時のまとめを行う。		<ul style="list-style-type: none"> ○ 練習を積極的に行っているかどうか。 【運動の技能】
7 本時の振り返りを行う。 生徒の発言	<ul style="list-style-type: none"> ○ 個人での練習では気づかないことも、友達と協力して練習することによって、新しい発見や自信につながることを伝える。 ○ 自分以外の人に関心を持ち、課題解決に向けて取り組むことにより「頑張れる集団作り」ができることを伝える。 	

- ◎「満足できる」状況（A）と判断する生徒の姿の例
・何度も進んで練習をしている。・友達にアドバイスしている。
- ◎「おおむね満足できる」状況（B）と判断する生徒の姿の例
・積極的に練習に参加しようとしている。・友達の練習を見ている。
- ◎「努力を要する」状況（C）と判断する生徒の姿の例
・練習をしていない。・友達の練習を見ていない。

新見市立新見第一中学校 令和元年度学校力向上サポートキャラバン

第4回校内研修開催要項

令和元年10月21日(月)

14:00~15:30

於 被服室

1 開会

2 講義・演習 「特別支援教育の観点からの授業づくり」

講師：岡山県総合教育センター 特別支援教育部 指導主事 岡崎 綾子 先生

3 質疑応答、ふり返し

4 閉会

先生方へ

令和元年12月20日（金）職員会議資料

教務担当 藤井幸治

授業改革推進員 小林 悟

冬休みの宿題

1 概要

- ① 冬休み中に、学年末テスト問題のうち大問を1つ作成してください。そして、3学期始業式の日、藤井までご提出ください。なお、全国学力・学習状況調査および岡山県立高等学校入学者選抜に係る学力検査の趣旨に沿った内容となるようにしてください。
- ② 冬休み中に、①で作成した大問の単元計画を作成し、①と一緒にご提出ください。様式は自由ですが、必ず「付けたい力」を明示してください。
- ③ 3学期に、①②で作成した大問の単元については、公開を前提に授業を行ってください。（指導案等は不要です）

2 目的

- 定期テストを一つの目標として、付けたい力を明確にし、そのゴールに向けた計画的な単元計画を基にした授業に臨むというサイクルに立った授業改善を進める。→次年度に向けての準備です。

3 対象

- 1・2年の授業担当者（5教科+保健体育）※非常勤講師は除く

4 提出方法

- 紙媒体と電子データ（教育サーバー→教務部→校内研修→学年末考査資料）

忘れたら居残りしましょうか?!

5 備考

- 作成したテスト問題および単元計画は、授業改革推進チーム（チーム備北）および県内の授業改革推進チームで情報共有します。

付きたい力

- 「地震」に関する知識を活用し、緊急地震速報の情報を分析して解釈できる。
- 科学的な概念を自然の事物・現象に当てはめて考えることができる。

単元計画

活きている地球 1 章 大地がゆれる

時	主な学習活動	評価の観点				評価規準及び評価方法
		関	思	技	知	
1	地球内部の謎にせまる	○				大地で見られるさまざまな変化の様子やし くみに関心を示し、これからの学習で探ろ うとする。 【行動観察】
2	大地を伝わる地震のゆれ			○	○	地震についての体験や地震計の記録、過去 の資料などを基に、その揺れの大きさや伝 わり方の規則性に気付く。 【小テスト】【ワークシート】
3	ゆれの大きさと地震の規模		○		○	震度は、震源からの距離によって異なるこ とと、初期微動継続時間の長さが震源から の距離に関係していることに気付く。 地震の規模(マグニチュード)と震度につい て理解する。 【小テスト】【ワークシート】
4	地震が起こるしくみ	○			○	地震の原因をプレートの動きと関連付けて 理解する。 【小テスト】【ワークシート】
5	地震による災害と身を守る取組	○				地震による災害について理解し、自分たち の住む地域で地震が発生したとき、どのよ うに行動したらよいか考える。 【協働学習による行動観察・レポート】

1

「緊急地震速報による避難訓練」の後、理科の授業で地震の学習を行い、科学的に探究しました。

(1)～(3)の問いに答えなさい



理科の授業場面 1



緊急地震速報は、震源に近い地震計でP波をとらえ、S波による強い揺れが起こる可能性があることを一斉に知らせる仕組みです。

- (1) 地震の揺れの強さを何といいますか。
また、S波による揺れを何といいますか。
それぞれ下のア、イから1つ選びなさい。

地震の揺れの強さ	ア マグニチュード	イ 震度
S波による揺れ	ア 初期微動	イ 主要動

理科の授業場面 3

緊急地震速報は、P波とS波の伝わる速さの違いを利用しています。
ところで、打ち上げ花火を観察すると、花火の光に対して音が遅れて聞こえるのを経験したことはありませんか。地震と打ち上げ花火を関連付けて考えてみましょう。



地震	打ち上げ花火
P波が届く	花火が光った瞬間が見える。
S波が届く	花火の【X】が届く。
初期微動継続時間	花火が光った瞬間が見えてから、 花火の【X】が届くまでの時間

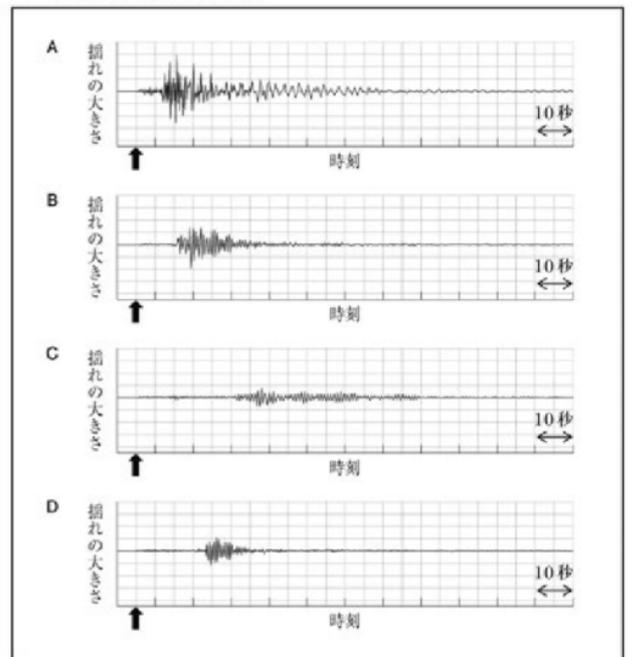


- (3) 上の【X】に適する語句を1つ書きなさい。

理科の授業場面 2



A～Dは、緊急地震速報が出された地震の4つの地点の記録です。「↑」は、その地点における揺れ初めの時刻を示しています。縦軸は、それぞれの時刻における揺れの大きさです。



- (2) 緊急地震速報を受け取ってから、S波による揺れが始まるまでの時間が、最も長いと考えられる観測地点を、上のA～Dの中から1つ選びなさい。

第1回学校評価会議要項

令和2年1月8日

13:30～15:00

被服室

※進行（藤井）

1 開会あいさつ（校長）

2 協議

（1）令和2年度年間行事予定について

（2）学校評価結果から見える課題と今後の対応について

協議項目

- 学力向上1（授業）
- 学力向上2（家庭学習）
- 人権教育
- 生徒指導&教育相談
- 学級活動&生徒会活動
- 部活動

3 閉会・諸連絡

○他の校務分掌の評価については、各担当者でまとめをして次年度に生かせるようにしてください。

○次回学校評価会議 1月29日（水）午後（職員会議後）

第1回学校評価会議 協議の進め方

A グループ 西村 谷岡 安田 有西 杉本 三上 羽柴	B グループ 中務 堀江 横見 藤野 上仲 岡崎 森上	C グループ 小林 久津間 白神 小松 中山 重村 春名
--	--	---

(1) 令和2年度年間行事予定について

すべてのグループで協議



全体発表

☆意見集約のみで決定は後日

(2) 学校評価結果から見える課題と今後の対応について

協議1 指導の方針（戦略）

Aグループテーマ：学力向上（授業）、学力向上(家庭学習)

Bグループテーマ：人権教育、生徒指導

Cグループテーマ：学級・生徒会活動、部活動



全体発表・全体協議

☆戦略の決定

協議2 具体的な手立て（戦術）

Aグループテーマ：人権教育、生徒指導

Bグループテーマ：学級・生徒会活動、部活動

Cグループテーマ：学力向上（授業）、学力向上（家庭学習）



全体発表・全体協議

☆戦術の決定

学校評価結果から見える課題と今後の対応

項目	主な意見	指導の方針（戦略）	具体的手立て（戦術）
学力向上1（授業）	<ul style="list-style-type: none"> ●生徒が学んだことや考えたことを表出する活動が不十分だった。 ●自分が理解したことや考えたことを文章で表すような活動を十分設定できなかった。学んだことを使って書くことや伝えることを意識した授業を目指したい。 ●生徒がどれだけ主体的に考えられる時間となっているかが大切。 <p>○授業ファイブが実践できている。</p>	<p>★生徒がアウトプットする活動を重視しよう。</p>	<p>○どの教科でも活用できるマニュアル作り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基準や基本など <p style="text-align: center;">↓</p> <p>（効果）受け身である生徒が減っていく</p> <p>○ホワイトボードの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒にとって自由に書き消しができること魅力
学力向上2（家庭学習）	<ul style="list-style-type: none"> ●課題の点検と評価が十分できなかった。 ●家庭学習が困難な生徒（勉強の仕方が分からない生徒）への対応が不明瞭だった。 ●課題の提出率が悪い。 ●まなびノートの利用は中間層の引き上げには有効であるが、勉強の仕方が分からない生徒にはまなびノートに代わる対応が必要である。 	<p>★課題の点検と評価を重視しよう</p>	<p>○毎日使うノートの取り方とその効果についてのマニュアル作成</p> <p>○学習困難な生徒への課題を準備する</p> <p>○学年で競い合うようなWAKUWAKUを設定する</p>
人権教育	<ul style="list-style-type: none"> ●人権集会をやっただけになっており、普段の生活における人権意識を高める工夫が必要。 ●人権集会での取り組みはできたが、人権集会のための取組になっている。 ●「死ね」「がいじ」などの言葉が、普段の生活場面でよく耳にする。人権意識の低さを感じる。 ●日ごろから温かい雰囲気を作り出す努力をしていくべきではないか。 	<p>★日頃の関りを大切にしよう</p>	<p>○授業内で</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ソーシャルスキルで行動を教えていく ・道徳を意味のあるものにしていく <p>○日常生活内で</p> <ul style="list-style-type: none"> ・短学活で人権に関する話題を出す（スピーチ、言葉、受容風土） ・係活動の中に人権意識を培う場を設定する ・人権に関する些細なことを逃さない
生徒指導（生活指導を含む）、教育相談	<ul style="list-style-type: none"> ●ルールを守らない生徒への指導のあり方 ●自分たちで決まりやルールを守っていこうとする意識の醸成が必要。 ●一部の生徒の後追い指導で十分な効果が得られなかった。 <p>○定点での下校指導や交通違反カードに生徒の意識の変容がみられた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●きちんとできている生徒を承認する対応が不足している面もある。 ●教育相談の時間確保が難しい。 ●部活動も必要だが、放課後の時間の使い方も再考の余地あり。 <p>○SC, SSW が別室をたびたび訪れることで、別室利用の生徒とのつながりを図ることができた。</p> <p>○SCの専門性を生かした学級活動（ストレスマネジメント）を実施できた。</p>	<p>★学級の規律を大切にしよう</p>	<p>○班長会や学年の時間を定期的に確実に設定する</p> <p style="padding-left: 20px;">水曜日 ①専門委員会 ②学びタイム ③学年の時間（必須）</p> <p>○リーダー育成と生徒指導を重複させていく（相乗効果）</p>

学級活動、生徒会活動	<ul style="list-style-type: none"> ●朝の会、終わりの会の工夫・充実を図りたい。 ●どの学年もリーダーの育成が急務である。意図的に仕組む必要がある。 ●「話し合い活動」を充実させる必要がある。 ●自尊感情をはぐくむ取組を調整・精選していく。 ●生徒会活動が、いつ、どんな活動をしているかわからず低迷している。執行部が中心となり全体をリードする活動にしてほしい。 ●執行部には、魅力的な活動や周りから承認される活動を通して、達成感や自信をもたせたい。 ●委員会活動も自主的に活動できる委員会にしたい。 	<p>★前に出る場面をつくろう ～リーダー育成を目指して～</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○専門委員会の取組を全体の前で伝える。 <ul style="list-style-type: none"> ・人前でプレゼンをする（全校・学年・学級などで） ○定期的に生徒集会を持つ <ul style="list-style-type: none"> ・生徒主体の運営役が必要 ・各種の発表や表彰等 ○1分間スピーチの徹底 <ul style="list-style-type: none"> ・学年ごとにレベルを設定する（時間やテーマ設定など）
部活動	<ul style="list-style-type: none"> ●実施日と休日のメリハリができていない、一方で生徒が部活動から離れていっている気もする。 ○練習日程等は、早めに連絡できている。 ●挨拶や礼儀、片付け、規律など精神的な部分の指導が十分ではないように思う。 ●部内における人間関係トラブルが報告されている。人間関係作り、集団作りをベースに規範意識や礼儀も併せて指導を行う必要がある。 	<p>★基本的なマナーを徹底させよう ～挨拶・礼儀・準備・片付け～</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○部長会を定期的に開催する。 <ul style="list-style-type: none"> ・すべての部活で取り組む共通事項を決める。 ・あいさつや片付け等を中心に ○決まったことは、部活内の生徒同士で話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ↓ <p>生徒同士が頑張るしくみをつくる必要がある。</p>